

石川県羽咋郡志雄町荻市方言

著者	国立国語研究所
ページ	1-68
発行年	1968-10
シリーズ	方言録音資料シリーズ ; 9
URL	http://doi.org/10.15084/00003029

方言録音資料シリーズー9

石川県羽咋郡志雄町荻市方言

国立国語研究所編

1 9 6 8

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話しことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、金沢大学教授 岩井隆盛 が担当した。

も く じ

収録地点とその方言について	2
表記について	3
本 文	
荻市の昔と今	
(1) 修 学 旅 行	5
(2) いまの若いもの	8
(3) レンゲ山の角力	10
(4) 小さい時の小づかい銭	19
(5) お祭りのこと	22
(6) お寺の法事	27
(7) オラッチャ・ヤーヤなど	32
(8) 通学の服装など	39
(9) むかしの進学	42
(10) あいさつ	46
(11) 之 乎 路	59
(12) イッタッタ・キタッタなど	64

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：石川県羽咋郡志雄町字荻市

2. 収録地点の概観

荻市は農村であるが、志雄町の中心である子浦に接し、かつて(安永年間)子浦をも支配する十村がこの荻市にいたことのある部落である。それはともかく、金沢～七尾、羽咋～氷見の交通の要地である。とくに羽咋(能登)～氷見(越中)の路線は家持の時代すでに開けていたようである。

3. 収録した方言の特色

荻市の言語は、北陸西部とくに能登・越中の方言である。

音声では、シとス、チとツ、ジとズ、イとエ、サ行とハ行、ワとバの混同のほか、シェ、クッなどもある。文法は近畿に通ずるものが多い。しかし北陸ふうな準体助詞のガ(の)や、越中と似た敬語のイッタッタ(行かれた)なども目につく。

語彙では、能登ふうなベッチャ(ちがう、いいえ)、クダイ(下さい)、ハゾ(稲架)がこのあたりからはじまる。ヤモド(たくさん)は加賀の北部でも使うが、ケンケ(くれませんか)はこの特徴かと思われる。なお古風なバッカイ(面倒・世話)などがある。

4. 地点選定の理由

ここは能登の南部にある。東は越中(富山県)に直接つづいている。南は押水町一つをへだてて加賀(石川県)である。地域的には、加賀・能登・越中の接点であり、能登ふうな方言はここからはじまるともいえる。

表 記 に つ い て

(指定の字母以外に使用した字母, および使用した補助記号)

字母・補助記号の種類	語例と意味	(標準語訳)	音価についての注記
ə	horeə	(それは)	ə
ɨ	siranzɔ	(知らないぞ)	ɨは中舌

1. horeəの後部はreəに近いかと思う。それはともかくreə, koəなどは1音節である。
2. siranのsɨふうなものをsuのように表わしたところがあるかも知れない。

以上のほかはすべて指定の表記かと思う。

萩市の昔と今

録音日時 1967年8月21日

録音場所 石川県羽咋郡志雄町

字萩市坂本貞夫氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住地)
D	土一登美	女	明治35年生	飴の製造販売	石川県羽咋郡志雄町字萩市だけ
S	坂本貞夫	男	昭和18年生	小学教師	同上 ただし昭和42年4月から羽咋郡富来町にも住む
I	岩井隆盛 (編者)	男	明治42年生	大学勤務	0~12才羽咋郡押水町 その後、金沢・東京・金沢・石川県河北郡津幡町

- 解説:
- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 修学旅行 | 7. オラッチャ・ヤーヤなど |
| 2. いまの若いもの | 8. 通学の服装など |
| 3. レンゲ山の角力 | 9. むかしの進学 |
| 4. 小さい時の小づかい銭 | 10. あいさつ |
| 5. お祭りのこと | 11. 之乎路 |
| 6. お寺の法事 | 12. イッタッタ・キダッタなど |

(1) 修学旅行

S anoon oba:cjan wakai tokinii: omoqsjo-
あの おばあちゃん、 若い ときに おもしろ

kaqta koto nanka naika tegaja wakai tokini
かった ことが なにか ないか というのだ わかい ときに

D omosirokaqta kotonen
おもしろかった ことね

S on musume zidaidemo joisi
うん、 むすめ 時代でも よいし、

D hojane: man iciba:n kono kiokuni nokoqtoru
そうだね、 まあ いちばん この 記憶に 残ってる

kotowan mukasi zinzjo: ande man rokunen
ことは むかし 尋常(小学の) あれで まあ 六年

desitakaneN warazi haiteen hakama haite
でしたかね、 わらじ はいて はかま はいて、

hosite hemini made aruite hosite zuqto
そして 氷見にまで あるいは、 そして ずっと

husikini iqte iqpaku site hosite kaeqte
伏木に 行って 一泊 して、 そして 帰って

kitapapa iciban horepa kiokuni nokoqtoru⁽⁶⁾
来たのが いちばん それが 記憶に 残ってるのだ。

S rjoko:ke⁽⁷⁾
旅行ですか。

D rjoko
旅行。

S hu:N hore⁽⁸⁾: cincjai tokijarone⁽⁹⁾
ふうん、 それは 小さい ときだろうね。

D zinzjo goneNka rokunenjaqta rokunen ko:to
尋常 5年か 6年だった、 6年 高等(小学)

icineNnimo naqto-qtakane:
1年にも なってたかね。

S hu:N hon toqkja hikawajane gaqko⁽⁹⁾
ふうん、 その ときは 樋川だね、 学校は。

D hikawaja hositara hono sugata.o.o.N sja:sun
樋川だ。 そしたら その すがたを 写真

ni ucuite ima miru cju:to donna jokaqtamo
に うつつして いま 見る というと どんな よかったも

sireN tete omo⁽⁹⁾ajaredo sono zibuNnaaN
知れない と 思うのだが、 その ころは

sjasinmo nasine
写真も ないしね。

S hu:N hositaraan ima mukasi omosirokaqta
ふうん、 そしたら いま むかし おもしろかった(ことは)

hono hondake dakeke mada nanka hono kawaqta
その それだけ だけですか。 ほかに なにか その 変った

kotoo nakaqtake
ことが なかったですか。

D hojane kawaqta ju:ta tete imamitai konnaan
そうだね 変った(と) いった といつても) いまのように こんな

..... aqci koqcito rjoko:ni aruita cju: kotoo-
あちら こちらと 旅行に 歩いた という こと

mo nasi taisitanen mukasi zinzo ninendura-
も ないし、 たいした(ことは)ね。 むかし 尋常 2年くら

ino tokika kanazawamade sju: gaku rjoko:ja
いの ときか、 金沢まで 修学 旅行だ

tete iqte kita kotomo oboetorusi zisecu-
といつて 行って 来た ことも おぼえてるし、 時節

Da cidote anta kono undokai tokane man
が ちがって あんた この 運動会 とかね、 まあ

roqko: joqtene undokaika he: kara roqko
6校 寄つての 運動会か、 それから 6校

joqte kono ano nanjacja rensju:kaika
寄つて この あの 何だよ、 練習会(=学芸会)か

man sonna kotoo gaqko: no gjo:zi tosite
まあ そんな ことが 学校の 行事 として

aqta monja sakaii: honna ima wakai sito
あつた ものだ から、 そんな いま(の) 若い 人の(ように)

joqte konna koto sitatokanen sonna kotoo
集まつて こんな こと(を) したとかね、 そんな ことは

anta zjenzjen nai monno un honna muka.....
あんた 全然 ない もの、 うん そんな むかし)

konde man mukasito sennaranjaro jonzju:-
これで まあ むかしと しなくてはならないだろう、 40

nen karekore gozju:nenkara cjoqto tacu
年 あれこれ 50年から すこし(多く) 経つ

moNja sakai uN
ものだから、うん。

(2) いまの若いもの

S ho sita ra aN imano wakai moNna orujaro aNcja-
そしたら いまの若いものがいるだろう アンチャ

(11)
Nna orujaro 0aine aree nanka do:ka omowanke
ンが いるでしょう。 あれは なにか どう(と)か 思いませんか、

nanka omo: kotoe nanka naike
なにか 思う ことが なにか ないですか。

D imano wakai moNna
いまの若いもの(にづいてか)

S imano wakai sito oN
いまの若い 人のこと、うん。

D a: siawasena zisecuni iN konde me0umaretoru-
ああ しあわせな 時節に(なり) これで めぐまれてる

wato omote omo:waine uN hojaro
わと (思って) 思いますね。 うん そうだろう。

S uN mukasito kurabete donna tokoo joiganii
うん、むかしと くらべて どんな ところが よいのに

naqtorune wakai moNna
なってるね 若い ものは。

D maN riko:janen keqkjoku hojaro zibuN-
まあ かしこいね。 つまり、 そうだろう、 自分

de zibuNno isiootto:su:cju: koto0a riko:ni
で 自分の 意志を 通す という ことが かしこく

naqt agade naika siraN mukaqsja anta
なったので ないか しら。 むかしは あんた

ojano ju:narijoro oja0a ko:ja tete ieb
親の というままだろう。 親が こうだ と いえ様

kimono icimaidemo ojano ju:mama hojaro
着物 1枚でも 親の いう通り、 そうだろう。

nani sitocu honna ojano hantai suru monno
なに ひとつ そんな 親の 反対 する ものを

ko:temo morowarensi morota kotomo nakaqta
買ってても 貰われないし、 (買って)貰った ことも なかった。

hosite hosii kimocinimo naranandajaro
そして 欲しい 気持ちにも ならなかっただろう。

imano kodomoø minna konde maN kaqtena muka-
いまの 子供は みんな これで まあ 気ままな(もので)、むか

sino monkara naðameqtojazo kaqtena kima-
しの ものから ながめるとだぞ。 勝手な 気ま

mana konde do ieø joika atamaða joku naqte
まな、 これで どう いえば よいか、 頭が よく なって

riko:na kodomon i naqtoruðaka sokoða maN
かしこい 子供に なってるのか、 そこが まあ

konde cjoqto handan cukanneN hojaro
これで ちょっと 判断(が) つかないね。 そうだろう。

kimamanaðaka riko:naðaka hojaro keqkjoku
気ままなのか かしこいのか そうだろう、 つまり。

S uN oba:cjan motomoto oðicini oqtaðaine
うん、 おばあちゃん 元から 荻市に いたのですね。

D aN oðicuni umaretaðai
ああ 荻市に 生まれたのだ。

S hu:N motomoto aqkona ucike
ふうん、 元から あそこの 家ですか。

D uN aqkona ucija
うん、 あそこの 家だ。

S hu:N otoqcaN⁽¹²⁾ otoqcaNmo oideru
ふうん、 お父さん お父さんも おいでる。

D otoqcaN jo:sini kitaqtaðaja⁽¹³⁾
お父さん(は) 養子に 来られたのだ。

S hu:N hositara jaqpari oŋicine hitojaro
ふうん、 そしたら やはり 萩市の 人だろう。

D uN hojahoja oŋicuno hitojaredo horemo to:-
うん、 そうだそうだ。 萩市の 人だが、 それも ずっ

si oŋicini oranZjaqtajaro⁽¹⁴⁾ wakai toqkja
と 萩市に おられなかつただろう。 若い ときは

tabie detoqtaqtakeni
旅へ 出ておられたから。

S hu:N hositaraaN cjoqko ju:qkuri sjabeqte
ふうん、 そしたら(=ところで) すこし ゆっくり(と) 話して

hosiine
欲しいね。

D a:N ho:ka
ああ そうか。

S oN hanasino tocju:jakedoon hurahura:qto
うん、 話の 途中だが、 フラフラと

sjabeqtara nanka
話すと なにか……

D aN ho:ka huN
ああ そうか。 ふうん。

(3) レンゲ山の角力

S hositaraaN renŋejamano sumo: cju: monna
そうしたら、 レンゲ(蓮華)山の すもう(角力) という ものは

jaqpa zu:qto mukasikara aqtaŋake
やはり ずっと むかしから あったのですか

D zu:qto mukasikara aqtaŋai
ずっと むかしから あったのだ。

S cincjai toki donna monjaqtaine
小さい(子供の) とき どんな ものでしたか。

D oraqcjano kodomono zibun kara aqtagai mada-
オラッチャ(私)の 子供の ころから あったのだ。 まだ

mada se:daijaqtawane sumo:wane horega
まだ(もっと) 盛大でした。 角力はね。 それ

man gjo:zi hono siomacino ⁽¹⁵⁾ gjo:zi man mukaq-
まあ 行事, その 志雄町の 行事, まあ むか

sja siomurajaqtane hono gjo:zino sitocu-
しは 志雄村だったね, その 行事の 一つ

to site kosite nanzjunen cuzuitoru monjara
と して こうして 何十年 つづいてる ものやら,

..... hjakunenmo cuzuitoqka horee siranzo
100年も つづいてるか それは 知らないぞ。

oraqcjano kodomono zibun kara ano sumoga
オラッチャの 子供の ころから あの 角力が

arugaja
あるのだ。

S mini iqtamonke jaqpa
見に行つた 物ですか、やはり。

D mini iqtawaine anta sju:no ⁽¹⁶⁾ sumo: cju:ta-
見に行つたですね, あんた。 子浦の 角力 といった

ra anta zu:qto jamano ho:kara mukasijazo.....
ら, あんた, ずっと 山(村)の ほうから, むかし(は)だぞ,

bento moqte minna anta sju:no sumo cju:tara
べんとう 持って みんな あんた, 子浦の 角力 といったら

se: monosudo ⁽¹⁷⁾ se:daina ⁽¹⁸⁾ monjaqtave
盛(大)な, ものすごい 盛大な ものだったのです。

jamaakara bento moqte minna kitasinen
山村から べんとう 持って みんな 来たしね。

hosite minna anta hontoni sju:no smo:oma-
そして みんな あんた, ほんとうに 子浦の 角力を 待

cikane toqtawaine nanka jono gjo:ziga nai
ち兼ね ていたですね。 なにか(=なにも)ほかの 行事が ない

monja sakai hakuino sumo:ja sju:no sumo:ga
ものだ から, 羽咋の 角力や 子浦の 角力が

kondene: monosudo i minna kodomodemo wakai
これだね, ものすごい(=ものすごく) みんな こどもでも 若い

mondemo jorokonda monja
ものでも よろこんだ ものだ。

S hu:N jo: an tokiniin cjavaNuritoka honna
ふうん, よく あの ときに 茶碗売りとか そんな

mon kitoqtarone
もの(が)来ていただろうね。

D kitoqtage mukasikara cjavaNuri cjavaNurito
来ていたのです。 むかしから 茶碗売り 茶碗売りと

karakasaurija hosite zu:qto anta aqkoø
からかさ売りが。 そして, ずっと あんた あそこは

cjavaNuridemo takusan kitene karakasaja-
茶碗売りでも たくさん 来てね。 からかさ屋

ja cjveø takusan aru monno ima karakasa-
だ といえば たくさん ある から(=来ているから), いま からかさ

uridomoø mitai cju:temo naijaro minna
売りなどは 見たい といっても ないだろう。 みんな

ko:morigasaja sakai un
こうもりがさだ から, うん。

S hu:N hositara minna ko:taqta monjarone
ふうん, そうしたら みんな 買われた ものだらうね,

cjavaNo
茶碗を。

D minna ko:tawane anta karakasaurai anta
みんな 買ったですね, あんた, からかさなど あんた,

icineN sasudao ko:gaicja hojaro hositara
1年(間) さす(使う)のを 買うのだよ, そうだろう。 そうしたら

hitorini iqkaizucu minna konna konna gaqko-
ひとりに 一本ずつ, みんな こんな こんな(小さい) 学校

no kodomoø mo:suni ojobazu man hontoni hi-
の こどもは 申すに およばず、 まあ ほんとうに ひ

tokazukizucu⁽¹⁹⁾ minna zju:niN oreø hontoni
とかずきずつ、 みんな 10人 おれば、 ほんとうに

ziqpon ko:ta monzja ucira⁽²⁰⁾ un ima kono
10本 買った ものだ、 うちなど(では)。うん、 いま この

ko:moriðasani naqtekara kasaurimo konsi
こうもりがさに なってから、 からかさ売りも 来ないし、

zenzen honna ko:hicujo:mo iran nandoki-
全然 そんな 買う 必要も 要らない、 何時

demo kawareru sakai hairone
でも 買われる から そうだろうね。

S un motomotoø dokojarani ano sitani aqtaðane
うん、 元元は どこやらに あの 下に あったのですね。

D dokoni
どこに。

S jonejama no jokono ucine ano jolono ano
米山の 横の 家ですね、 あの 横の あの

hirobani
広場に。

D mukasikara asokoja
むかしから あそこだ。

S hu:N ima anmari hositara se:daide naijaro
ふうん、 いま あまり そうしたら 盛大で ないだろう、

ano aremo
あの あれも。

D ima se:daide nai hosite cjoqto ko:ko:zumoga
いま 盛大で ない。 そうして ちょっと 高校角力が

icinenmo nineNmo haiqtajaro icinenka
1年も 2年も 加わっただろう。 1年(だった)か、

arekaranen taisita kotoø naijaro sorekara
あれからね、 たいした ことは ないだろう。 それから

kono rjoko: rjoko: tete takusan detekita
この 旅行 旅行 ぞいって たくさん はやって来た

sakaija
からだ。

S uN wasiramoo⁽²¹⁾ ci:sai toqkja sumo:ə omoqsjo-
うん、ワシラも 小さい ときは 角力は おもしろ

kaqta waine minna miseə: takusan kitoqtasi
かった、 ですよ。 みんな 店が たくさん 来ていたし、

hairo cjawaNuritoka anna mon ko:takedo
そうだろう(=ね) 茶碗売りとか あんな もの 買ったが (いや)

mitoqtakedo hojaro
見ていたが、 そうだろう(=ねえ)。

D ima taisita monna oranjarō na:N sju:no⁽²²⁾
いま これはという ものは (来て)いないだろう。 なにも 子浦の

sumo:ja tete na:N iku himo aqsi ikan tōki⁽²³⁾
角力だ といつて(も)なにも 行く 日も あるし、 行かない とき、

ikan tosimō aruwa ucinimo
(いや)行かない 年も あるわ、 (私の)家でも。

S uN nanka cujoi somctoridemo oqta monkane
うん、なにか 強い 角力取りでも いた ものですか、

siono sumotoqrja
子浦の 角力取り(に)は。

D honde zimotoni oqta sakaide naika hono
それで 地元(に) いた からで ないか、 その

honzjo:sanjanō he:kara ano ima hakuini
ホンジョウさんだの、 それから あの いま 羽昨に

kitajama cju: hito sumo:torijaro hojaro
キタヤマ(北山) という 人(が) 角力取りだろう。 そうだろう

he:kara hjo:doni otoma cju: hitojano honna⁽²⁴⁾
それから 兵庫に オトマ(音ま)という 人だの、 そんな

hitoraga oqta waine hono zimotoni taniarasi-
人たちが いた ですね、 その 地元(に) タニアラシ(谷

no
嵐)の……

S ki Nzomaka
キンゾウマ(金蔵ま)か。

D ki Nzoma …… aqkojaro honde kondee: sumoθa
キンゾウマ, あそこだろう。 それで これで 角力が

se:daini naqtoqtagade naika sibirakune:……
盛大に なっていたので ないか, しばらく(の間)ね。

mukaqsja aqcinimo sumo: koqcinimo sumo:
むかしは あちらにも 角力, こちらにも 角力,

ima anta sonna siro:tono sumo: mirujori
いま あんた そんな 素人の 角力 見るより(も),

anna antane: riqpana sumo: miru monja saka-
あんな あんたね, 立派な 角力を 見る ものだ から,

ie:na:N siro:tono sumo:domo mondaide nai-
すこしも 素人の 角力など 問題で ない

θade naika siran …… un
ので ないか じら, うん。

S hositara jaqpa sjazikidemo jaqpa kونده:
そうしたら やはり (角力の)さじきでも やはり 組んで,

annaθa jo: kuNdaqraroθaine
あんなの(が) よく 組んであるでしょう。

D sanziki kونده aruwaine ne: anta sjo:daiken
さじき(は) 組んで ありますよ。 ねえ あんた, 招待券(を)

kibaqte kihusite takusan morota uciwa
くばって(貰って), 寄附 して たくさん (寄附を)貰った 家は

cjanto aqkoe sanziki adete hojaro …… hosite
ちゃんと あそこへ, さじき(に) 上げて, そうだろう。 そうして

minna taiθu sita monjacja
みんな 待遇 した ものだよ。

S hu:N hositara sumo:ni kaqtara siono oNmjasa-
ふうん, そうしたら 角力に 勝ったら 子浦の お宮さ

Ne ikugainen
んへ 行くのだね。

D ho:ja ho:ja oma curi site
そうだ そうだ、 おまつり して。

S gohe:ka nanka moqte
ごへいか なにか 持って。

D gohe: kazuite ho:suqcju:to hono sono
ごへい かついで、 そうするというと その その

kaqta toko⁽²⁵⁾ man kondo hanazumo: tete hana-
勝った ところは まあ これだ ハナ角力 といって、 ハナ

zumo: sitari ande jo: jowaqta^{ai} minna
角力(を) したり、 あれで よく 困ったのだ、 みんな

hanazumo: suru toqkja mata kihujaro: o tenu-
ハナ角力 する ときは また 寄附 だろう。 手ぬ

guidemo hurusikidemo minna konde kibaqte
ぐいなり ふろしきなり みんな これだ くばって

kuqsakai hono burakuno nanto ju:temo cuzui-
来るから、 その 部落の(→部落は) 何と いても つづい

toqsii: ho: surucju:to koqcini cianto site
ているし、 そう するというと こちらに(→こちらで)きちんと して

minnaan a^{en}naran^{aine} honna mon moro:-
(世話を)見なくてはならない、(何かを)あげなくてはならないでしょう。そんな もの(を) 貰っ

ta okaesini
た おかえしに。

S honde ano ano ano dandarasakano aqkoni
それで あの あの あの ダンダラ坂の あそこに

aqta^{ai} nanjaine
あったの(は) 何ですか。

D asoko hanazumo honzjosan doqkano seki toq-
あそこ(は) ハナ角力、 ホンジョウさん(が) どこかの (角力の)関を取っ

tee hosite hanazumo sita^{ai}airo (S ho:N)
で、 そうして ハナ角力(を) したのだろう。

keqkjoku oN
つまり、うん。

S hu:N hositara taniarasino taniarasite ju:ta
ふうん、 そうしたら タニアラシの タニアラシと いった

sumo: nanka heja mitaina mono aqtaðane
角力(取り)は なにか 部屋 のような もの(が) あったのですか。

kobuNdomoe oqtaðake
子分どもは いたのですか。

D sa: kobuNdomoe taisita oraNðade naika siraN
さあ 子分どもは 大した(ものが) ないので ないか しら。

S honDemo kinzoma kinzoma.....
それでも キンゾマ キンゾマ

D ju:taga dekai konna hitoja curanukino
(と)いったの(は) 大きい こんな 人だ。 ツラヌキの

otoqcanmo sumo: torijaqtazo deqkai hono
オトツツァンも 角力取りだったぞ。 大きい その

hitokoso sumo: torijaqtawa jeno honzjosan-
人こそ 角力取り(にふさわしい人)だったわ。 ほかの ホンジョウさん

raqcja asimotoemo ikaN
たちは 足元へも およばない。

S hu:N jaqpa kobunka nanka oqteðane
ふうん、 やはり 子分か なにか おられるのですか。

D ande oqtaðajarovai kokono minna honne hjo:-(26)
あれで(まあ) いたのだろうよ。 この みんな それね 兵

ðono otomajano ano honzjosanjano minna
庫の オトマだの、 あの ホンジョウさんだの、 みな

ande taniarasino kobunni naqtoqtaðaka
あれで タニアラシの 子分に なっていたのか。

hono curanukino kobuN ju:tara taniarasida
その ツラヌキの 子分 (と)いったら タニアラシが

naqtoqtaðaka
なっていたのか。

S hu:N honnara taniarasino kobunni mata oq-
ふうん、 それなら タニアラシの 子分に(→子分が)また いる

cju wakeja hojaro
という わけだ、 そうだろう。

D ho:sureo ano honzjosanra naqtoqtaðajaroðai
そうすれば あの ホンジョウさんら(が) なっていたのだろうよ。

…… uN
うん。

S honnara aqkoni sekihitaiða taqtorujaro
それなら あそこに 石碑のようなものが 建っているだろう、

ano
あの……

D are: taniarasijaro
あれは タニアラシだろう。

S taniarasika are
クニアラシか、 あれ。

D curanukinoðamo taqtorujaro
ツラヌキのものも 建っているだろう。

S hontoke curanukino namae nanjaine areo
ほんとうですか、 ツラヌキの 名前(は) 何ですか、 あれは。

D curanuki tete ima naqtoruu
ツラヌキ と いま なっている。

S sumo: torino namaeða
角力取りの 名前が(ですね)。

D uN …… curanuki
うん、 ツラヌキ。

S bukuø anna do:site anna tokoni isino man
ボクは あんな どうして あんな ところに 石の まあ

sekihi taqtoru sumo:tori……
石碑(が) 建っている、 角力取り……

D renðejamano tokode …… (S uN uN) han aqkoni
蓮華山の ところで、 はあ あそこに。

S hu: N areə nanka do: ja siNda monde taqtoruθa-
ふうん、あれは なにか。 どうだ、 死んだ ものだから 建っている

(27)
kai sekihike ande kinenke
のか (あれは) 石碑ですか、 あれで 記念ですか。

D ano karatojamae ikuto minna sumo: torino
あの 唐戸山へ 行くと、 みな 角力取りの

sekihiθa taqtoruθaine are siNdekara
石碑が 建っているのだね。 あれ 死んでから

tateta monka ikittoqteno aidani tateta monka
建てた ものか、 いきておられる 間に 建てた ものか、

soreə wakaran hairo
それは わからない。 そうだろう。

(4) 小さい時の小づかい銭

S oba: cjanra hon toki cincjai tok: ikurahodo
おばあちゃんら、 その とき、 小さい とき どれほど (小づかいを)

morote iqtoqtaine tada mitoqtaθake
貰って 行っていましたか ただ 見ていたのですか。

D sumo minika
角力 見にか。

S un goziqsenka nanka kanedemo moroteqta mon-
うん、 50銭か。 なにか 金でも 貰って行った もの

ke
ですか。

D anta goziqsendomo morawanjaroθaine hoja-
あなた 50銭なんか 貰わないでしょう、 そうだ

ro: (S un)
ろう。

I goziqsen daimaija monne
50銭(は) たいへんだ ものね。

D daimaija ucinoo: to:cjanraa: zinzjoi
たいへんだ。 家の 父ちゃんらは 尋常

jonenka sanneno toki wakurae iqtadai sju:—
4年か 3年の とき 和倉(温泉)へ 行ったのだ、修

gakurjoko:ni okaneo zju:gosenjaqta toine
学旅行に。 お金を 15銭 だった とうね。

..... ora⁽²⁸⁾daine (S oN oN) hositarane: gosjen
オラがだね。 そうしたらね。 5銭

gosjen ano ojuo ko:te kitasi zjuqsen
5銭 あの お湯を 買って 来たし、 10銭

mameame ko:tara cuko: okaneda nakaqta toine
豆飴を 買ったら、 使う お金が なかった、とうね。

..... jo: honna koto ju:te o:warai surugai
よく そんな こと いて 大笑い するのだ。

S honna koto surja macurina mada nannaN
そんな こと すれば、 まつりは まだ いやいや、

horekosa: zjuqsen nara zjuqsen guraijane
それこそは、 10銭なら、 10銭ほどだね。

ju:te mirja sukunakaqta
いて 見れば すくなかった。

D oraqcjano toqkja ja: ziqsendomo morawan gade
わたしらの ときは いや 10銭なんか 貰わないので、

naike gosjenmo morotaka man sekino jama
ないですか。 5銭も 貰ったか、 まあ、 せいぜい

ziqsenmo morota monkane ano wasuremo sen ga
10銭も 貰った ものかね。 あの 忘れも しないが、

(S uN) ko:to icinenka ninenno toki tojama—
高等(小学の) 1年か 2年の とき 富山

nii: hakurankaija aqtawai (S uN) nanaziq—
に 博覧会が あったわい。 70

senja cigai kwaihi aman kisjaci n kara
銭だ とうのだ、 会費(が) あ、まあ、 汽車賃から、

nankara nanno hositaraku monna oranan-
なにから、 何の(ことはない) そうしたら 行く ものが いなかった

dazone (S ho:N) oraqcjamo ikaN oraqcjamo
ですね。 わたしらも 行かない、 わたしらも

ikaN cju:tagai nanaziqsende
行かない といったのだ 70銭(のこと)で。

S imani sureo deqkai kaneja cju wakejane cjo-
いまに すれば 大きい 金だ という わけだね。 ちよ

qto teo: denanda cju wakejarone honna dekai
っと 手が 出なかった という わけだろうね、 そんな 大きい

kane
金(では)。

D hono kodomoni omokio oitorangade nakaqtaka
その、 子供に 重点を おいていないので なかったか

siraN mukaqsja imawa kodomoo konde dai-
しら、 むかしは。 いまは 子供を これで 大

zini site sodateru ziseqcjaredo mukaqsja
事に して 育てる 時節だが、 むかしは

anta kodomoo tada tabesaito honna taisita
あなた、 子供を ただ たべさせて そんな 大した

kjo:ikumo suqcju kotomo nasi (S uN) tada
教育も するという ことも なし、 ただ

sodaqtadade naike konde hondemo era:i
育ったので ないですか これで、 それでも 偉い

benkiono dekiru sita: dekitasi dekin monna
勉強の できる 人は できたし、 出来ない ものは

dekinandagajakedo anta tokono otoqcanra
出来なかったのだが、 あなた ところの お父さんら(は)

monosudo i sju:saijaqtazo hontoni
ものすごい 秀才だったぞ、 ほんとうに。

S nan ju:torudaine
なにを 知っているのですか。

D ora q c j a s a n s u : n a r a i n i i q t e d o : k j u s e n a q j a
わたしは 算数 習いに 行って 同級生 なのだ、

k o n o h i t o n o o t o q c a n t o o r a t o h o s i t e w a s a n s u
この 人の お父さんと わたしと、 そうしては 算数

n a r a i n i i q t e w a a n o s i e t e m o q t a w a i n e (S h u : N)
習いに 行っては 教えて 貰ったですね。

(5) お祭りのこと

S h o s i t a r a h o : z i j a h o n d a k e j a q p a a a n o : n i n j o
そうしたら (寺の)法事は それだけ やはり あの にぎ

w a s i k a q t a k e d o m a c u q r j a d o n n a m o n j a q t a i n e
やかだったが、 祭りは どんな ものでしたか。

D m a c u r i m o j o r o k o n d a w a i n e
まつりも うれしかったですね。

S o f i c i n o m a c u r i t a i s i t a k o t o e n a i j o r o q a i n e
萩市の まつり(は) 太した ことが ないでしょうね。

D h o j a m u k a s i k a r a a n o t o r i j a r o i m a m i t a i d a i r o
そうだ むかしから あの 通りだろう、 いま みたいのだろう。

S s i c n o m a c u q r j a j a q p a o m o q s j o i q a d e n a i b a k a i
子浦の まつりは やはり おもしろいので ないのです

n e o f i c i n i k u r a b e r e e
か 萩市に くらべれば。

D o m o q s j o i t e t e a n t a s i s i m a i q a o i s a k a i j a r o q a
おもしろい といって あんた 獅子舞いが 多い からでしょう。

i n e h o j a r o
そうだろう。

S u N (D u N) w a q s j a s i r i c u n d a q t e i q t a q a i k e d o
うん、 ワシは 尻(に) つれだって 行ったのだが

o f i c i n o m a c u q r j a h o n n a c u n d a q t e
萩市の 祭りは そんな つれだって……

D aruku hodone oran monno (S on) anna monna
歩く ほどに いない もの。 あんな ものは

kodomonos sisimai dakejaro: o (S on) hosite
子供の 獅子舞い だけだろう。 そして

na: N honna taisita kotomo nai daisi ne
なにも そんな 大した ことも ないのだし、 ね。

(S un) hojarone
そうだろうね。

S honnara mukasikara jaqpa amejano uee aqpa-
それなら むかしから やはり 飴屋の 上へ あがっ

toqta monke ano aree
ていた ものですか、 あの あれが

D mikosusanka (S on) hontono mukaqsja aqpa-
み興さんか。ほんとうの むかしは あが

ranandaredo ande hojane jaqpa aqarikakaqtaqa
らなかったが、 あれて そうだね やはり あがりはじめたの(は)

dondake hodo tacuka siran ako zu:qto huzino
どれだけ ほど 経つか しら。 あそこ ずっと 富士の

jamani sitene denkide (S hun) okajamano
山に してね、 電気で。 岡山の

otoqcanra oqteno toki jaqtawane ano zibunni
お父さんら(の) おられる ときでしたね、 あの ところに

ano zu:qto tasjokara mierudani site denkide
あの ずっと ほか(の部落)から 見えるのに して 電気で

huzisanno kono kataci sitene hutari site
富士山の この 形(を) つくってね、 二人 で

keqko se:daini sitoqtaqaja ima na: N honna
かなり 盛大に していたのだ。 いま なにも そんな

koto sjento
こと しないで。

S okajamano ozizi obaba tokonone
岡山の おじいさん、おばあさん ところのね。

D obabano ozizi
おばあさんの おじいさん(オババの主人)。

S ozizine
おじいさんね。

D un ano hitoe ginko sitoqtaqta zibunni wakai
うん、あの 人は 銀行(を) しておられた ころに、 わかい
tokine (S ON) cianto hono huzisan kqsja-
ときね ちゃんと その 富士山(を) こしら

etene donna kireni site aqtacja
えてね、 とても きれいに して あったよ。

S motomoto hositara jaqpa aqkoë aḡaranandaḡane
元元(は) そうしたら やはり あそこは あがらなかったのね、

saisjoe ano
はじめは あの。

D aḡaranandaḡai hun akibasan aqtaḡajaredo
あがらなかったのだ。 ふん アキバ山(秋葉社は) あったのだが、

hazime aḡaranandaḡaja ci:sai konna odo:no
はじめは あがらなかったのだ。 小さい こんな お堂の

akibasanjaqtaḡai ima annaḡani tatetajaro
アキバ山だったのだ。 いま あんなのに 建てただろう、

cjoqto o:kiiḡani (S ON ON) cincjai honto-
すこし 大きいのに。 (はじめは) 小さい ほんと

nii: akibasanjaqta
うに アキバ山だった。

S obaba⁽²⁹⁾ mukasimo kawara⁽³⁰⁾ to:cjan nanmo ano⁽³¹⁾
オババ むかしも カワラ 父ちゃん(ほかは)なにも(せず)あの

kantanna sisimai jaqtoqtaḡake
かんたんな 獅子舞い(を) やっていたのですか。

D sisimaika (S ON) ON areḡ areḡte arejaḡai-
獅子舞いか。 うん アレァ アレァと(いう)あれだよ

ne miqtoko naijarogaine
ね 見るところ(は) ないでしょうね。

S na:N zenzeN miqtoko naisii: mukasikara aimo
なにも まったく 見るところ(は) ないし、 むかしから すこしも

kawarazu gen⁽³²⁾maito⁽³²⁾kaa: anna tada genmaito⁽³²⁾ka
かわらないで グンマイとか、 あんな ただ グンマイとか

sin⁽³³⁾maito⁽³³⁾ka nanka macurino hurikata arujaro-
シンマイとか なにか まつりの 舞いかた(が) あるで

uaine (D uN) mukasikara jaqpa anna⁽³³⁾uaine
しょう。 むかしから やはり あんなのだね。

D mukasikara …… narote kaeru cju: kotomo nasi
むかしから (どこかから) 習って 帰る という ことも なく、

ano mamani site mukasino torini jaqtoru⁽³³⁾ai
あの ままに して むかしの 通りに やっているのだ。

(S hu:N) uN
うん。

S misedemo jaqpa kita monke siotaqkakane
店でも やはり 来た ものですか。(来たのは) 子浦だけかね。

D mise uqrja onmjasanno huci …… (S dakeke
店 売りは お宮さんの ふち …… だけですか。

(hu:N) honna taisita kotomo naicja kokorane
ふうん。 そんな 大した ことも ないよ、 このあたり(は)ね。

S uN hositaraa: macurijori sumo: no hoe omoq-
うん、 そうしたら、 まつりより 角力の 方が おも

sjokaqtade⁽³³⁾ naitakaine
しろかったので ないのですか。

D hoja hoja sumo: e omoqsjoiwaine
そうだ、 そうだ。 角力は おもしろいですね。

S ne: (D uN) wasirani sitaqte macurijori
ねえ、 ワシラに しても まつりより

sumo: no hoe omoqsjokaqtasine
角力の 方が おもしろかったしね。

D hojarone hakuino sumoni iqta monja mukasi
そうだろうね。 羽咋の 角力に 行った ものだ、 むかし(は)

(S uN) bento moqte (S uN) hosite miNna
べんとう(を)もって、 そして みな

asa nanka imamitai baqsie aru koqcja nasi
朝 など いまのように バスが ある ことは なく、

(S uN) minna aruita monja
みな 歩いた ものだ。

S ho:jane jaqpa siono ho:zijori⁽³⁴⁾ jaqpa hakuino
そうだね。 やはり 子漕の 法事より やはり 羽昨の

ho:zie omoqsjokaqtasine
法事が おもしろかったしね。

D omoqsjokaqta
おもしろかった。

S cjoqto mata uejaqtasine
すこし また(羽昨は)上だったしね。

D so:ja so:ja honde hon-toni mukasi tete tai-
そうだ そうだ。 それで ほんとうに むかし というと、 大

sita k-tomo kondene tanosimimo nakaqtaθaja
した ことも これでね、 たのしみも なかったのだ。

(S uN) ima tosijorimo wakai monmo rjoko:
いま 年寄りも 若い ものも 旅行

rjoko: tete hon-toni konna tanosimina sjaba-
旅行 といって ほんとうに こんな たのしみな 世の中

ni cjoqkodemo oranja donnaranto omotoruθaja
に すこしでも(生きて)いなくては どうにもならないと 思っているのだ。

(S uN……) sinaren cigai …… mukasikara mirja
死ねない というのだ。 むかしから 見ると

karadaθa minna rakujasine (S uN) mukaqsja
体が みな らくだしね。 むかしは

minna hataraitaredo ima hon-toniin rakuna
みな 働いたが、 いま ほんとうに らくな

konna z+secuni narimisitene⁽³⁵⁾ (S uN)
ごんな 時節に なりましてね。

(6) お寺の法事

I honnara ho:zini honnara ano monoo urini
それなら 法事に, それなら あのものを 売りに

kitanowa karakasatoka sonna donna jona mon
来たのは からかさとか そんな どんな ような もの(を)

urini kita mondesuka macuri ano sumo:no
売りに 来た 物ですか, まつり あの 角力の

tokimo
とき(で)も。

D a: sumo:no toki cjoqto ande nandesudaine
あ, 角力の とき ちょっと あれで 何ですね,

jasimitai monmo kitarine he:kara ano cjava-
ヤシのような ものも 来たりね。 それから あの 茶碗

Ndesjo omona monja cjava nto karakasa he:ka-
売りでしょう, おもな ものが 茶碗と からかさ, それか

ra ano: konde minna hojane:
ら あの これで みな そうだね。

I karacumondesuka
からつ物ですか。

D karacumon karacumonno mise ga ande iciban
からつもの, からつものの 店が あれで いちばん

kurugadesu
来るのです。

S zju:mo nizju:mo kitoqtane hidoi toqkja
10も 20も 来ていたね, ひどい ときは。

D aN ho:siqcu:toon horemojasi icinenzjuno
あ, そうするというと それもだし, 1年中の

karacu cju: wakede nakeredomo man ocjawan
からつ という わけで ないが, まあ お茶碗

cju monna wareru monja sakai tete gohanzja-
という ものは 割れる ものだ から といって, ご飯茶

wankara nanmo kanmo minna ko: tewa (S uN)
腕から にも かも みな 買っては、

hosite rainenno sumoni naqcjuto mata kima-
そうして 来年の 角力に なるという と また 来ま

sjone: ho: siqto mata ko: ʔadesucja…… karaka-
しょうね、 そうすると また 買うのですよ。 からか

samo sono torija (nanja ciʔai) (35b) konde ande
さも その 通りだ、 (何だ というのだ) これで あれて

kudamonkara okwasi mitai monkara kodomono
くだものから、 お菓子 のような ものから、 子供の

omocja mitai monkara zu: qto naraʔadesu
おもちゃ のような ものから ずっと 並ぶのです。

S hanʔirejamo kitoqta ʔade nai ʔakaine kaʔire
端切れ屋も 来ていたので(は) ありませんか、 端切れ

mitai monmo ne
のような ものも ね。

D un kitoqta nandemo konna iruijarone
うん 来ていた 何でも こんな 衣類だろうね。

S on on mukaqsja nanzja ano karakasaja kara-
うん うん むかしは 何だ、 あの からかさ屋、 から

kasato karacumonna jaqpa o: kaqtane
かさど からつものは やはり 多かったね。

D iciban o: kaqta
いちばん 多かった。

S ima nanzjara ano: N anon ninʔjotoka omocja
いま なにやら あの、 あの 人形とか おもちゃ(が)

takusan aqkedo mukaqsja cjawanuri baqkarija-
たくさん あるが、 むかしは 茶碗売り ばかりだ

qtane
ったね。

D cjawanuri baqkari
茶碗売り ばかり。

S hereo dokono hitojaqtawaine
それは どのの 人だったですか。

D ano hitora komacuno komacukai aqkoø dokojai
あの 人たち(は) 小松の, 小松かな, あそこは どこだな,
ima c jawan uqtoqtoko
いま 茶碗 売っているところ(は)。

S terai
寺井。

D teraika ande teraino ho:kara siirete kuru-
寺井か。 あれで 寺井の 方から 仕入れて 来る
yade naika siran
ので ないか しら。

S hu:N areo omoqsjokaqtawane mitorudakade
ふうん あれは おもしろかったです, みているだけで。

D mitoruto omoqsjotene ikurani site sutete
見ていると おもしろくてね。 いくらに して 捨てて

makete jaru makete jaru tete ju:tewa seru-
まけて やる まけて やる と いったは 競る

gaga donna omosiro tewa kawanto tada sore
のが どん(に) おもしろくては, 買わないで ただ それ(を)

mitoqta wadesu waine huN
見ていたのですよね。 ふん。

S imademo mukasi mukasino mamano hitoø kito-
いまでも むかし むかしの ままの 人が 来て

qtejane oracino cincjai tokino hitodemo
おられるね, わたしらの 小さい ときの 人など。

D hoja hoja dandan toqsja iqtaredo (S on)
そうだ そうだ。 だんだん 年は いったが,

mukasino hitojawane (S un) na:N konna
むかしの 人だわね。 なに こんな

anta inakadeq sakaii: anna kore tete ju:te
あなた いたかです から, あんな これ と いった

toqte naNsuruno kotohodono monmo nasi
取って どうするの(という) ことほどの ものも なし。

S un oba:cjanraqcja ano cincajai tokini jo:
うん, おばあちゃんらは あの 小さい ときに よく

honna ho:zidemo macuridemo iqtoqtajarone
そんな 法事でも まつりでも 行っていただろうね。

(D huN) man mukaqsja minna kimono kite:
まあ むかしは みな きもの 着て。

D minna kimono kite sodeno kimono naða:i
みな きもの 着て, そでの(ついた)きもの 長い

sodeno kimono kite soreða ures+kaqta ða
袖の きもの 着て, それが うれしかった の

desjo
でしょう。

S jaqpa ii kimon kitadake icumojori
やはり よい きもの 着たのですか, いつもより(も)。

D joi joi anta ima: gaqkoe iku kodomoø cjan-
よい よい, あんた, いま 学校へ 行く 子供は ちゃん

to nandemo hudanno mamamitai monjaro (S on)
と 何でも 平常の ままのような ものだらう。

mukaqsja anta nanja ðaine sjo:sjozijosikito-
むかしは あんた, 何だ よね, 証書授与式と

ka tencjo:secutokani naqcju:to minna man
か 天長節とかに なるというと, みな まあ

konna mukasino moncuki hairoo moncuki moq-
こんな むかしの 紋付, そうだろう, 紋付 持っ

toru hitowa moncuki kiru hucu:no kimonodemo
ている 人は 紋付 着る, 普通の 着物でも

tansuni simo:te aruðao honna hudanno mamani
タンスに しまって あるのを そんな ふだんの ままに

ikucju: kotoø zjenzjen nakaqtasakai hosite
行くという ことは まったく なかったから, そうして

hakama haitejazo
はかま はいてだそ。

S horeo honna ho:zino tokidemone (D aan)
それは そんな 法事の ときでもね。

ho:zino tokja donna monjaine
法事の ときは どんな ものですか。

D ho:zino toqkja sodeno kimono kiru gaine
法事の ときは 袖の 着物(を) 着る のです。

S aan sodeno kimono kiruga
ああ 袖の 着物(を) 着るの(ですか)。

D gaqkono toqkja minna cjanto honna nanjacja
学校の ときは みな ちゃんと そんな 何だよ。

sikenno toqkja tansukara daito kimono kite
試験の 時は ダンスから 出して 着物(を) 着て

ikugai (S hu:N) hono ho:zino toqkja kimo-
行くのだ。 その 法事の ときは きも

no kiru gada uresikaqta gajarcwai ne:
の 着る のが うれしかった のだろうよ ね。

(S u:N) macurito ho:zi
まつりと 法事。

S un bonodoqrja donna monjaqtaine
うん 盆おどりは どんな ものだったですか。

D bonodorimo mukasikara ano to:ri sje:daina-
盆おどりも むかしから あの 通り 盛大なの

gaja
だ。

S en ima nanka anmari sabirete mo:torujaro
え いま なにか あまり(に) さびれて しまっているだろう。

bonodori
盆おどり(は)。

D ima konde sabiretorujaro horega jono nande-
いま これで さびれているだろう。 それが ほかの なんて

mo miru monkara⁽³⁶⁾ aru monde bonodorimo mini
も 見る ものが ある ものだから、 盆おどりも 見に

iku monna joke oranjarō (S un) sonde
行く ものは あまり ないだろう。 それで

sabireru gade naika siraN
さびれる ので ないか しら。

S aree nanja siono miqcaodori⁽³⁷⁾ kaine
あれは 何だ。 子浦の ミクサおどり ですか。

D mikusaodori tokatetene: jakamasi ju:taredo
ミクサおどり とかといってね やかましく いったが。

S jaqpa undozjoni jaqtoqta gajaro
やはり 運動場に やっていた のだろう。

D siraN mini ikan monno
知らない 見に 行かない もの(=から)。

S a: so:ka hu:N
あ そうか、 ふうん。

D hon-ton: oraqcja mitai nenpaino hitora odori
ほんとうに わたしら(の) ような 年輩の 人たち(は)、 おどり

sukina hitoga hon-toni minna mukaqsja odoq-
好きな 人が、 ほんとうに みな むかしは おどっ

ta monja (S hu:N) oraqcjano kot'a: hore
た ものだ。 わたしらの ことは それ(を)

kiraija monno (S hu:N)
きらいだ もの(=から)。

(7) オラツチャ(わたしら)・ヤーヤ(母)など

S o:ja ojasanno ka:cjanna mada zuqto ueke
オーヤ、 オーヤさんの かあちゃんは (年は)まだ ずっと 上ですか。

D o:jasanno ka:cjan hicizju:icija (S hu:N)
オーヤさんの かあちゃん 71だ。

oraqca rokuzjuroku jaro hon toni korocju:
わたしら 66 だろう。 ほんとうに これという

toritomeno nai konnane kokorano nanjasakai
とりとめの ない こんなね ころら(あたり)の なんだから、

kotobazukaija mukasikara miree monosugoi
ことばづかいは むかしから 見ると ものすごく

I ki re: ni naqtasine kokoro ni koto bane
きれいに なったしね、 ここ(は)。

S un anmari okasii kotoba iwanne
うん「あまり おかしい」ことば いわないね。

D iwan
いわない。

I honnara mukaqsja anmari mukasiano katanai-
それなら むかしは、 あまり むかし、あの きたない

jo: na cjuimasuka hazukasii jo: na kotobani
ような といいますか、 はずかしいような ことばに

donnajo: na kotoe aqta mondesuka
どんなような ことが あった ものですか。

D kotobadesuka (I eeN) hodesune ciocju:
ことばですか。 そうですね。「遼」という

kotoo mukaqsja no kotobade nanmoja tete
ことを むかしは、 (昔)の ことばで ナンモだ とい

beccjawane nanmoja ne: (S un) beccja Dai-
ベッチャです、 ナンモだ ね ベッチャ です

ne tete koi Dai nanmojawane tete
(40) と こういうのだ、 ナンモです と。

S wasirademo nanmoja cju: ne
ワシラでも ナンモだ というね。

D jaqpa ju: ke
やはり いいますか。

S oba: cjan iqpiki (41) iqpiki cjuwanke
おばあちゃん イッピーキ イッピーキ といけませんか。

D i q p i k i j u : ʋ a i n e

イッピキ(と) いうのです。

S n a n d e m o i q p i k i j a r o

なに(に)でも イッピキだろう。

D u n h o : s u q c j u : t o k o n o o n j a m a s u r o h e n e i k u

うん、そうするというと、この 山代(温泉の) あたりへ 行く

c j u : t o w a r a w a r e r u ʋ a j a c j a a n o o n n o t o n o o b a : -

という と 笑われる のだよ。 あの 能登の おば

c j a n i q p i k i i q p i k i c j u : t e t e n a n d e m o i q p i k i -

あちゃん イッピキ、イッピキ、というといつて、何でも イッピキ

j a c j u : t e t e w a r a w a r e r u ʋ a j a

だ というといつて 笑われる のだ。

S h u : N s a k a n a d a k e n a r a n e h o n d e w a k a r u ʋ a i k e d o

ふうん、魚だけならばね、それで 分る のだが、

a t o k o d o m o d e m o t o : q t a r i m o n o i q p i k i c j u : -

ほかの、子供でも、通ったり(すると)、もの イッピキ、とい

t a r i n e :

たりね。

D i q p i k i i q p i k i j u : t o k o d e s i t a ʋ a i i m a a n t a

イッピキ、イッピキ、という ところでしたよ。 いま あんた

h o n n a k o t o b a k a w a q t e m o n o s u ʋ o i i m a n o w a k a i

そんな、ことば、変つて、ものすごい。 いまの、若い

h i t o r a h a i k a r a n a ʋ a d e k o t o b a j u : t o r u ʋ a i k e -

人たち(は) ハイカラな、ので、ことば(を) いづている、のだ

d o (S h u n) o r a q c j a o r a q c j a t e t e o r a q c j a

が、 オラッチャ、オラッチャ、といつて わたしら(は)、

w a t a s i d o m o g a q k o e d e t e w a t a s i w a t a k u s i

ワタシ(というの)など(は) 学校へ、出て、ワタシ、ワタクシ、

t e t e a n d e h o n n i n a r o t a ʋ a j a r o ʋ a n e h o n z j a r e d o

と、あれで、ほんとうに、習つた、のでしょう。 そうだが、

m u k a s i n o k o t o b a n o m a m a n i o r a q c j a t e t e w a t a -

むかしの、ことばの、ままに、オラッチャ、と、ワタ

si tete ju:te ande kaete ju:joni naqtaŋa
シ と いて、 あれて 変えて いうように なったの(は)

a:a konde nanjaro ŋaine oraqcjano hatacu
あ これ で なんでしょう、 わたしらの 20才

zubunno toqkara watasini naqta ŋakane:
ころの ときから ワタシに なった のかね。

(S hu:N) joi ucino hitoŋ watasidemo ju:to-
よい 家の 人は ワタシなど いて

qtazo (S ON) kono hucu: no iqpan kate: to
いたぞ。 この 普通の 一般 家庭 と

sitewa oraqcja oraqcja cju:toqta hojaro
しては オラッチャ オラッチャ といっていた、 そうだろう。

S wasirademo ju:ne (D UN) oraqcjate imademo
ワシラでも いうね。 オラッチャと いまでも

ju:waine
いますよ。

D huN honzjaredo konna toqsjogrija ikura toq-
ふん、 そうだが こんな 年寄りは いくら 年

sjoridemo watasi watasi tete oraqcja hokae
寄りでも ワタシ ワタシ と(いうのは)わたしらは ほかへ

iku cju:to hazukasite honna koto juwarento
行く というと 恥ずかしくて そんな こと(は) いまないと、

mukasino mama oraqcja: cju:te ora oruwaine
むかしの まま(に) オラッチャ といっ て わたしは 居ります、

UN imanara oto:cjantara papatara mamatarate
うん。 いまなら オトチャンとか パパとか ママとかと

ju:toredo hono zibunna i: ŋade ototo okaka-
いっているが その ころは 良い ので オトト(=父) オカカ(=母)

jaro ŋaine (S UN) nen (S UN) hono zibun
でしょう ね、 その ころ。

S ototo okakajane
オトト オカカだね。

D un' ototo' okaka oun' ototo' okaka
うん オトト オカカ。

I sore e' sukosiwaru naqto' dodo' do: ju: ta-
それが すこし かわるく なる と どう どう いった
desuka ですか。

D mukasja mukasja
むかしは、

S toto' cjuwana'nda' kaine' toto' cjuwana'nda' kaine'
トト といわなかった ですか。

D toto' ja' ðaine' (S'ine) to: to' ka: ka' to: to' ka: -
トト だがね。 トート カーカ トート カー

ka' cju: ta' kaka' といいた。

S ne' hanna' ða' ju: tane' ne' hanna' ða' ju: tane'
ね そんなの(に) いったね。

D ima' o' ba: cja' n' toka' ne: N' kotoba' ða' kawaqte'
いま オバーチャンとか ね ことばが 変って

simotee: N'
しまつて。

S hoja' toto' kaka' nanka' honna' ða' kiitane'
そうだ トト カカ なにか そんなの(を) 聞いたね。

D ima' pa: patara' ma: matara' te' jaqto' redoo' N'
いま パーパとか マーマとかと やっているが

I ja: ja' cju: ða' nakaqtake'
ヤーヤ というの(が) なかったですか。

D hazukasikeredo' ju: tawaine' anta' mi' nna' h'jaku-
はずかしいが いました あんた、みな 百

s'jono' hitoraq'cja' ja: ja' to: to' jawaine' anta'
姓の 人らは ヤーヤ トートですよ あんた、

mmai' koto' iwaqsjaruwa' hon' toni' ora' hazukasij-
うまい こと(を) いわれるわ、 ほんとうに わたし(は) はずかし

te iwarenaNda ja:jamo oraqcjano ucuno kotoe
くて いわれなかった ヤーヤも、 わたしらの 家の ことは

sjo:baija jasakai ja:jamadee iwanandaredo
商売屋 だから ヤーヤまでは いわなかったが、

hjakusjode naimon minna ja:ja benzjodomo
百姓(=農家)で ないもの(=から) みな ヤーヤ(だ)。便所なども

iwananda kansjo cju:ta monja (Sunun)
いわなかった、 カンジョ といった ものだ。

S ne:sanc nja:nja cju:ne aree aqkona ucidake-
ネーサの ニャーニャ(嫁さん)というね、 あれは あそこの 家だけで

de naiyakaine ju:da wasira aqkona ucino
(は) ないのですか、 (あんなに)いうの(は)わたしら あそこの 家の

ne:sanni ne:sande nai ka:cjan jakedoo:
ネーサン(=嫁さん)に、ネーサンで なく (もう)カーチャン だが。

D oine minna ju:ta vaja mukaqsja honzjaredo
そうです。みな いった のだ。 むかしは そうだが

ano hito da ano mamani nja:nja ja:njani
あの 人が あの ままに ニャーニャ ニャーニャに

naqtoru dai mukaqsja kono musumesan o nja:-
なっている のだ。 むかしは この むすめさん を ニャー

nja aqkona nja:nja kokono nja:nja cju:ta
ニャ(といた)、あそこの ニャーニャ ここの ニャーニャ といった

dai
のだ。

S imademo ju:torune iqkendake
いまでも いているね 一軒だけ(は)。

D ta:tatoka ne: oraqcjano wakai toqkja man
タータ(=おじょうさん)とかね、 わたしらの 若い ときは、 まあ

hono kodomono zibunna ta:ta cjoqko nensja
その こどもの ころは、 タータ(といた)、すこし 年が

taqtara nja:nja (Shu:N) anesa hairone
取ると ニャーニャ、 アネサ(=嫁さん)、 そうだろうね、

jomeiri jomeni iqtarii: nandari sitara haja
嫁入り、 嫁に 行ったり など すると もう

anesanjaja imanara ne:santoka ju:toredo
アネサンだよ、 いまなら ネーサンとか いているが

anesanja
アネサンだ。

I honnara otokono koe do: ju:ta padesuka
それなら 男の 子は どう いった のですか。

D ansama
アンサマ(青年の長男などのこと)。

S tanci cjuwanandakaine e:sano
タンチ(幼童)といわなかったですか、 エーサの(タンチのように)。

D kodomoø tanci
子供は タンチ(といた)。

S areø kodomokaine e:sano tanci cju:tarane
あれは 子供ですか、 エーサの タンチ といったらね。

(44)
D ancjan imani naqtara imademo ancjan ancjan
アンチャン(という)いまに なる。 いまでも アンチャン アンチャン

ju:toru
といている。

S mukaqsja honnaga iwanandarone ancjandomo
むかしは そんなの(に) いわなかっただろうね、 アンチャンなど(と)。

D asukono ancjandomo iwanandarøai (S ne:)
あそこの アンチャンなど いわなかっただろうよ。

tanci ansama ne:
タンチ(で大きくなると) アンサマ、 ねえ。

I tanci cju:nowa i: i:padesjo
タンチ というのは よい よいでしょう。

D i:Øaja i:Øaja anta
よいのだ、 よいのだ、 あんた。

S hojane anmari wasira wakai monde anmari
そうだね、 あまり わたしら 若い もので あまり(よく)

sirankedo e:sano tancidake siqtoruwa darenō
知らないが、 エーサの タンチだけ 知っているわ。 だれの

koto ju:toru daka sirankedo
こと(を) 知っている のか 知らないが。

D e:sano tanci tanci cju:tane
エーサの タンチ, タンチ といったね。

S u:N hoqde jokaqta dairo
うん それで (呼び方は)良かった のだろう。

D jokaqta dajazo mukasi gohukuja siteen
良かった のだぞ。 むかし 呉服屋(を) して

(S hu:N) oqte honde jokaqta dai (S hu:N)
いた, それで 良かった のだ。

(8) 通学の服装など

D honzjaredo ima kondene hontoni kawaqta-
そうだが いま これでね ほんとうに 変りました

wane hucusoto iee joi kotobato iee:
ね, 服装と いえば よい(し), ことばと いえ

nanmokamo kawarimasita dai e: konna mukaq-
何もかも 変りました よ ええ こんな むか

sja gaqkoidomo iku toqkja konna tezimano
しは 学校へなど 行く ときは, こんな 手箱の

kimoN simanone: (S uN) e: ucino kodomowa
きもの, 箱のね, よい 家の 子供は

kasurino kimoN (S uN) hucu:no kodomoe
かすりの きもの, 普通の 子供は

minna simano kimoN kite ikimisitade e:
みな 箱の きもの 着て 行きましたね え。

(S hu:N) hujudemo nadaucucu iqsoku nasi
冬でも 長靴 一足 なし,

cubutai ʒani zo:ri haite (S hu:N) hujuzazo
つめたい のに ぞうり(を) はいて、 冬だぜ。

(S uN) konna aka:i imademo omo:toruga aka:i
こんな 赤い、 いまでも 思っているが 赤い

keqto mo:hujateo imanara aka:i keqtoʒa
ケット、 毛布だよ。 いまなら 赤い ケットが

hajaqteneN aka:i keqto kitari iroirona koN-
はやってね、 赤い ケット(を) 着たり、 いろいろな こん

na keqto kitari gozabosi kabuqte iku kokara
な ケット 着たり、 (45) ゴザボン(を) かむって 行く 子供)から、

(S uN) honna mantodomo mada oraqcjano
そんな マントなど まで(は) わたしらの

icinenja ninenni nakaqtato omowa
1年や 2年(の時)に なかったと 思うわ。

S hu:N nan haitoqtaine iku toki
ふうん、 なに(を)はいて行きましたか (学校へ)行く ときは。

D eqkja huqsu anta imajori madamada ora juq-
雪が 降るし、 あんた いまより まだまだ わたし(は) 雪

kja aqtato omoʒane (S hu:N) huqtemo tai-
が (多く)あったと 思うがね。 (雪)が降っても 大した

suta sukasananda ʒadenaike imanara a:sitewa
(努力もせず) 除雪しなかった ので不是吗。 いまなら あ(のように)しては

sukasuni kuredo (S hu:N)
すかしに 来るが

S zo:ri ke
(はきものは)ぞうりですか。

D zo:ri haitoru ʒai
ぞうり(を) はいている のだ。

S jukja huqtoru ʒani
雪が 降っている のに。

D tabi haite zo:ri haiteqtawaine
足袋(を) はいて ぞうり(を) はいて行きました。

S aro jukino zibunni hakananda ga gomu warade
あの 雪の ところに はかなかつたの(か)。 ゴム (否)わらで

cukuqta jacu
作った やつ。

D a n n a m o n d o m o n a k a n a k a h a k a n a n d a h a k o i i k u
あんな ものなど なかなか はかなかつた。 羽昨(へ) 行く

k o m o o q t a s i h j a k u s j o n o k o d o m o e a n n a m o n
子も いたし 百姓の 子供は あんな もの(を)

cukuqte moqte haite
作って 貰って はいて(いたが).....

S a : n a n c j u d a i n e
あれは 何というのだね。

D a r e e h u k a d u c u
あれは フカグツ。

S h u : N a n o w a r a d e c u k u q t a j a c u
ふうん、 あの わらで 作った やつ。

D h o j a h o j a h u k a d u c u h a i t e (S h u : N) o r a q c j a
そうだ そうだ フカグツ(を) はいて、 わたしら

t a i d a i z o : r i h a i t e w a n a n k a g a q k o e i q t e
たいてい そうり(を) はいては。 何か 学校へ 行って

g o h a n d a c u b e t a i t e t e a t a t a m e q c j u : k o t o m o
ご飯が つめたい といって あたためる という ことも

n a s i h o n n a b e n t o n o o k a z u s i t e m o q t e k u c j u :
なく、 そんな べんとうの お数(を) して(作って) 持って行く という

k o t o m o n a s i h o n t o n i k o n d e n e : s i q s o c j u e e
ことも なく、 ほんとうに これでね 質素 といえ

j o i k a i t a r a n a n d a c j u e e j o i k a a n m i n n a h o n n a
よいか、 いたらなかった といえ よいか、 あ みな そんな

d a j a s a k a i e n (S u n) b e n t o n o o k a z u n i h o n z j a -
のだから、 べんとうの お数に(は) そうだ

s a k a i m m e : b o q s j a c j a (S h u : N) m m e : b o q s j a
から 梅ぼしだよ。 梅ぼし(を)

kiraina ko^e cukemon demo moqteqta monka
嫌いな 子は つけもの(漬物)でも 持って行った ものか

honna anta okazoireni okazo domo moqte kita
そんな あんた お数入れに お数 など 持って 来た

kodomo honna sjogaqkono zibunna minandazone
子供(は) そんな 小学校の ころは 見なかったです。

e: N nan moqteqta monzjara konde jonzju:nen
え なに(を) 持って行った ものやら, これで 40年

gozju:nenno hanaqsja sakaien honna bentono
50年の(前の) 話だ から そんな べんとうの

okazodomo wasurete simotokoto haja (S u: N)
お数など 忘れて しまうよ, もう(すでに)。

e: honna monna mazuito omota kotomo nasi
え そんな ものは まずいと 思った ことも なく,

honde manzoku site gaqkoe iqtoqta dadesjo-
それで まんぞく して 学校へ 行っていた のでしょう

daine
よね。

(9) むかしの進学

S hikawae iqtoqta dajaro
樋川(の小学校)へ 行っていた のだろう。

D hikawaja
樋川だ。

S hikawano sjo:gaqkoe detoqta daine
樋川の 小学校へ 出ていた のだね。

D unano hikawano sjo:gaqkoda taqta tokino
うん あの 樋川の 小学校が 建った ときの

uresikaqta koto kozinno ucini oqfa dadesucja
うれしかった こと。 個人の 家に(それまで)いた のですよ。

S saisi joo
はじめ。

D un oŋinosimano simadani oqtaŋai (S hu:N)
うん 荻の島の 島田に いたのだ。

hosite simadani ninenmo oqta ŋakane hosita-
そして 島田に 2年も いた のかね。 そうした

ra ano imano ano gaqkoŋa dekitara imanoo
ら あの いまの あの 学校が 来たたら、 いまの

kota: boroborojaredo uresitene: haiqtara
ことは ボロボロだが、 うれしくてね (校内へ)はいったら

deqtokoŋ wakarān tetesawaide aruite o:kii
出る ところが わからない と さわいで あるいて、(学校が)大きい

monjasakai hon toni i: anō gaqkoŋe ande me:zi
ものだから。 ほんとうに よい、あの 学校は。 あれて 明治

jonzju: jonnenkato omotoruŋ gajaga (S hu:N)
44年かと 思っている のだが

taqta ŋajane (S un) hon toni mukasino
建った のだね。 ()ほんとうに ()むかしの

kotoo kangaete miru cju: to ima mānanna
ことを 考えて 見るか というど、 いま まあ あんな

nanjara kanjara wakarān desuwaine (S u:N)
何だか カンだか わからない です。

zinzjo ŋene nni jameteku hito jara honde hokae
尋常4年に 止めて行く 人やら、 それで (ほか(の家)へ

komorini iqtadeqso hatabae iku hito jara
子守に ()行ったのですよ。(紡績の)ハダバへ ()行く 人やら、

man zinzjo rokunen de o:kata ŋaja minna ja-
まあ 尋常 6年で 多く ()もう みな ()止

mete gimukjo: iku cju: kotomō nakaqtaredo
めて、 義務教育 ()という ()ことも ()なかったが、 ()

andene: hosite onnāno hitora taiŋai nanzja-
あれで ね。 そうして 女の 人など(は) たいい 何だったが

qtaredo oraqcja ʒaa: koqde joi ucino hitoʒa
(進学しなかったが)。わたしが これで、 よい 家の 人が

kono oʒici cju tokoni oqtaqta ʒai jonin
この 萩市 という ところに おられた のだ、 4人、

orato joninka hositara atono hitoraga gaq-
わたしと 4人か、 そしたら 残りの 人たちが 学

kono sjensjeno ucino hitojano kannuqsanno
校の 先生の 家の 人だの、 神主さんの

ucino hitojano minna ko:toe deq cju:taqta
家の 人だの、 みな 高等(小学)へ 出る といわれた

ʒai hositara ora omote en hositara oramo
のだ。 そうしたら わたし(は) 思って ね、 そうしたら わたしも

detaisakai daite kure tete ucino hitoni
(高等へ)出たいから 出して くれ と、 家の 人に

ju:taraa honnaraan hondake detakeree daite
いったら、 それなら それだけ 出たいならば 出して

jaq tete daite morotaʒa jokaqtaredoon aru
やる といって 出して 貰った(の)が よかったけれど、 ある

hitoʒa ju:taqta horewa wasurenzone a:q
人が いわれた。 それは 忘れません。 ああ

aqkorano kodomoʒaan ko:toe deta tete ju:ta
あそこなんかの 子供が 高等(科)へ 出た と いった。

hairone anta imano daigaqkjori hodoni iwa-
そうだろうね、 あんな いまの 大学より (大学)ほどに いわ

reta monka ora mada jakamasiiʒani ju:ta
れた ものか、 わたし(のこと)まで やかましい(=うるさい)のに いった

ʒade naikato omogaʒa (S hu:N) ano aqkoran-
ので ないかと 思うのだ。 あの あそこら

no kodomoʒa ko:toe joi ucuno kodomoo mina-
の 子供が 高等へ(行く)。良い 家の 子供を 見習

ro:tee: aqkona kodomoʒa ko:toe deqtoine
って、 あそこの子供が 高等へ 出るそうだね

cju:taqta honzjaredo jaqpariin detari dai-
といわれた。 そうだが やはり (自分も)出たり (親から)出し

te moqta okaŋeni: jaqpari horeo iqsju
て 貰った おかげに(よって), やはり それは 一生

konde anta minnato tonarino obabaraqja
これで あなた 皆と(肩が並べられる)。となりの おばあさんなどが

kitewaa: N ba:cjan sinbunna jonde doja hesu-
(家へ)来ては, おばあちゃん 新聞は 読んで どうだ, ヘシナイ

⁽⁴⁶⁾
na nakarowane tete ora asademo sinbun cira:-
ことが ないだろうがね と, わたし(が) 朝など 新聞(を) チラ

qto midasidake mite ho:siq cju:to tonarino
ッと 見出しだけ 見て(いると), そうする というと, となりの

obaba hoja wainete oraqcja nan kaite aroŋa
おばあさん(は)そう ですよと, わたしら(は) なに 書いて だろうが

ikurademo hima aredo bakaraide ⁽⁴⁷⁾ jomare-
(分らない) いくらでも(読む) ひまは あるが, わからなくて 読めな

nna tete ju:teni cuite a:a mono cju: monna
いな と いわれる(の)について, ああ もの という ものは

naro: toki jaqpari narotokan kotonja iqsjo
習う(べき) とき(に) やはり 習っておかない ことには 一生

torikaesino cukan monzjato ora omote cuku-
取りかえしの つかない ものだと わたし(は)思って つく

zuku man kansin sitewa orimisuwaine e:
づく まあ 感心 しては おりますです。 え

jaqpari anta hitoe konnapeo ⁽⁴⁸⁾ teŋaqmja kitemo
やはり あなた 人が こんなのだ(と) 手紙が 来ても,

koreo donna ŋaine tete icudai to:tewa to:-
これは どんな のですか と 一代(=一生)(人に)たずね たずね

tewa oru mani anta kakarenedomo jomodakeo
ては いる 間に あなた, (字は)書けないが 読むだけは

⁽⁴⁹⁾
rikucuna jomu mondeqsone hondeen araa:
リクツな(ことで) 読む ものですよ。 それで ああ

hontone ojano okapene jokaqtananto omote
ほんとうに 親の おかけて よかったなど 思って、

ima toqsja eqtaraan kansja site orimasucja
いま 年が 行ったら 感謝 して おりますよ。

uN hontoninen hondake jakamasi iwarete
うん ほんとうにね それだけ やかましく いわれて

binbonakaqta monde gaqkoe deta daizone
貧しかった もので、 学校へ 出た のです。

(S hu:N) uN

(10) あいさつ

S (49b)
(aisacu ikimasuka) honnaraan obaba anoon
(あいさつ(へ) 移りますか) それなら オババ、 あの

asaa: hitonidemo o:ta tokini aisacu suru
朝 (ほかの)人などに 会った ときに あいさつ する

jaro (D uN) are donna dani ju:toqta dai-
だろう。 あれ(は)どんな のに いていた です

ne mukasidemo maN hucu:no kotobani ju:te
か、 むかしでも まあ 普通の ことばで いて

mi reba
見れば。

D mukasika
むかしか。

S uN imanara ohajo: gozaimasu cjujaro (D uN)
うん、 いまなら お早う ございます というだろう。

mukaqsja honna iwanaNdajaro gaine donna
むかしは そんな(に) いわなかっただろう がね。 どんな

koto ju:toqtaine asa
こと いていました、 朝

D ohajo: gozaNqsane cju: ɖairoɖane (S hu:N)
お早う ゴザンスワネ(ございますです)という のだろうがね。

hojaro
そうだろう。

S ohajo: gozansane tee:
お早う ゴザンサネ と(いうのか)。

D un ohajo: gozaNqsanete
うん、お早う ございますと(いう)。

S hu:N honnara niqcju do jutoqtaine niqcju:
ふうん、それなら 日中(は) どう いらっしゃいましたか、 日中(は)。

D niqcjuka (S un) i: tenkijaneN tete..... ima
日中か。 よい 天気だね と、 いらっしゃいま

tenkja jokereə joitoka joi anoon ijana
天気が よければ よいとか よい、 あの 嫌な

amejaneN tete konna jo:na monzja
雨だね と、 そんな ような ものだ、

S hu:N nen cukerune
ふうん ネン(を)(あとに)つけるね。

D un ja:na amejaneN (S un) joi tenkijaneN
うん 嫌な 雨だね、 よい 天気だね

tete konna jona..... hojaro (S un)
と、 そんな ような、 そうだろう。

S jorue donna ɖaine ju: ɖatademo
夜は どんな のですか、 夕方(のこと)でも(よいが)。

D hojane: osi..... imawa konbanwa osimaisanjarō
そうだね、 オシ(マイサン)、いまは こんばんは オシマイサンだろ

ɖai
うよ。

S un horeə ju: ɖatajaro ɖaine
うん、それは 夕方だろう がね。

D un ju: ɖatademo ju: han tabetekarademo osima-
うん、 夕方でも 夕飯 たべてからでも、 オシマ

isan tete ju:teja miNnaDara osimaisan'cju:
イサン と (みなさんが)いわれる。(どなたも)みな オシマイサン という。

honna haikarana kotoba iwananda gade naika-
そんな ハイカラな ことば(を) いわなかった ので ないか。

na: honzjaredo osimaisanDurai ju:toruwai
そうだが オシマイサンくらい(は) 知っているよ。

(S ne:) un
うん。

S imademo ju: gade naikaine osimaisan'
いまでも いう ので ありませんか、 オシマイサン(は)。

D imademo osimaisan ju:toru (S ne: hu:N)
いまでも オシマイサン(は) 知っている。 ね、 ふうん。

konbanwado mo nakanaka saikin hajaqte kita
コンバンワなど どうして 最近 はやって 来た

kotobade (S un) en osimaisan jaroDaine
ことばで、 え オシマイサン でしょう、

(S nen) un
ね うん。

S jomedorini iqte nanka iwanke jomedorino
よめ取りに 行って なにか いいませんか。 よめ取りの

ko:zjoka nanka donna ga ju: Daine jomedori-
口上か なにか(は) どんな の(に)いい ますか、 よめ取り

ni iqtara
に 行ったら。

I ano:N josono ucino: ojomedorino: ano: oiwa-
あの、 ほかの 家の およめ取りの、 あの お祝

io ju:jo:na nanka sono katamitaina monna
いを いうような なにか その 型みたい ものは

nanka kono henni nai mondesuka donna jona
なにか この あたりに ない 物ですか、 どんな ような

koto ju:ta mondesuka
こと(を) いった 物ですか。

D ho:jane: oraqcja anta honna toqkja wakaisi-
そうだね、 わたしらは、 あんた、 そんな ときは 若いし。

(jaro)

S nanka jokogawano ucie nanka mono moqteqta
なにか 横川の 家へ なにか もの(を) 持って行った

gade nai gake nanka jomedorini arujaro
ので ない のですか、 なにか よめ取りに (話すことが) あるだろう

gaine jomedoqrja arujaro doqkani hon tuki
がね。 よめ取りが あるだろう どこかに、 その とき

sinamondemo moqte ikujaro gaine oiwaino
(祝いの)物など 持って 行くだろう がね お祝いの。

hon tuki nanka ju:jaro gaine kotobao
その とき、 なにか いうだろう がね ことばを。

D honna koto mmaikoto ju: hito aredo oraqcja
そんな こと(を) 上手に、 いう 人(は) あるが、 わたしらは

anta honna tokoe iqta kotoo naimonno
あんた そんな ところへ いった ことが ないもの(=ないから)。

S honzjakedo nanka ju:jaro gaine kantanna
そうだが、 なにか、 いうだろう がね、 簡単な

kotobade
ことばで。

D kantanna kotobadeka (S UN) hoja honna
簡単な ことばでが、 そうだ そんな

kantanna re:ka na:N kokora konde kan.....
簡単な 例か。 いや、 ところ(は) これで 簡(単な)とこで、

nenboroja cju:temo kantanna kjoa antaan
ていねいだ、 といっても 簡単な、 今日(は) あんた

omedeto gozaimasu cjute maN konna jona mon-
お目出とう、 ございます、 といって、 まあ、 こんな ような もの

zja. hon-tono mukasikara kantanna gaja
だ、 ほんとうの、 むかしから、 簡単な のだ。

S hu:N tada omedeto gozaimasu
ふうん ただ おめでとう ございます(か)。

D un kono tabi omedeto gozaimasu tete konna
うん この たび(は) おめでとう ございます と こんな

jona monzjajaine hono maeno kotobaŋa oraŋ-
ような ものだがね。 その 前の ことばが、 わたし

cja obabaŋa oqtaqta monde orano ojaŋa oqta
らは オババ(ここでは母)が おられた もので、 わたしの 親が いた

monde oraŋcja zjenzjen sonna tokoe taŋci
から、 わたしら 全然 そんな ところへ タッチ

sjenanda monzja
しなかった ものだ。

S a:N obabaŋa baŋkai jaqtaqta monde
ああ、 オババ(ここでは母)が 世話(を) やられた もので(=ために)。

D on oraŋa ucini umareta monnaŋa desucja
うん、 わたしが 家に 生まれた ものなの ですよ、

honto ju:tara hositara hono obaba cju:
ほんとう いったら。 そうしたら その、 オババ という

sita:kensikie aqte orano oja Jaredo siŋŋa
人は 見識が あって、 わたしの 親 だが、 死ぬが

siŋmade zenbu kamotoqtaqta ŋai. (S hu:N)
死ぬまで 全部 (家の事を)かまっておられた のだ。

ucino kotowa ge:ta kodomoni geta iqsoku
家の ことは 下駄(を) 子供に、 下駄 一足

ko:ŋamade obabano
買う のまで オババの

S jurusi nake
許し(が) なけ(れば?).....

D jurusiŋa nakeneŋ kowan ŋai (S hu:N) kowan
許しが なければ 買わない のだ。 買わない

tete horeŋ nande ko:ta cjuwa iwanedomo
といって(も)、それは なぜ 買った とは いわないが、

o j a n o j u : t o r i s i t o r e e m a c i j a i n a i t o m o t e
親の 云う通り(に) しておれば 間違い(が) ないと 思って。

(S u N) h o j a r o n e n (S u N) h o n d e s o n n a
そうだろうね。 それで... そんな(ことは)

o b a b a n o h o n n a n a n d e k o r e k o s a s i r a n z j a d a r e -
オババの そんな(ことはオババの)なに(仕事)で これこそは 知らないよ。 だれ

k a n i h o r e c j o q t o h i t o k o t o a n t a k i i t e h a n a s i
かに それ(を) ちよっと 一言 あんた(が)聞いて はなし(を)

s u r u k o q c j a
する ことだ。

S u N h o s i t a r a a n (D u N) a k a c j a n u m a r e q r j a r o
うん そうしたら(つぎに), あかちゃん(が) 生まれるだろう,

d o : s j e a k a n a n k a a k a c j a n u m a r e t a r a n a n k a
いずれ あか(ちゃん?)。なにか あかちゃん(が) 生まれたら, なにか

m a t a m o q t e q t a r o (D u N) a r e e n a n k a j u : t e
また 持って行ったろう。 あれは... なにか いて,

m o q t e q t a r o j a i n e
持って行ったでしょう。

D a r e e h o r e h o r e m o j a j a i n e a n t a t c k o n i i n a k a -
あれは... それ... それもだ... がね... あんたとこに... あか

c j a n u m a r e t a t e t e e n o m e d e t o g o z a i m a s u
ちゃん(が)生まれた... ってね... おめでとう... ございます。

(S u N) h o r e e i m a a n t a s a i k i n n o k o t o b a j a
それは... いま... あんた... 最近の... ことばです

z o n e (S u N) m u k a s i n o h o n n a k o t o j u : t a k a -
よ。... むかしの(noは不要) そんな(こと)... いったか

n e : N
ね。

S d o n n a k o t o j u : t o q t a m o n k a n e t a d a b o s a : q t o
どんな こと... いていた... ものかね... ただ... ボザーッと(行きますか)。(50)

D i k a n j a q p a r i h o n d e m e d e t a k e r e e m e d e t a i j u : -
(ただ)行かない。やはり... それで, ... めでたければ... めでたい(と)... いっ

(51)
tee: konnaan nan sita monjaredomoon tete
て, こんな つまらない ものだが と

ju:te moqteku gairo gaine (S uN) hairoo
いって, 持って行く のでしょう。 そうだろう,

(S uN u:N) keqkjoku
つまり(は)。

S so:sikino tokiwa so:sikite hito sinda qta
葬式の ときは, 葬式というのは 人の 死なれた

tokijazo
ときだぞ。

D sinda qta toqkja nihon zjendoku iqsjojaro
死なれた ときは, 日本 全国 いっしょ (=同じ)

gaine
でしょう。

S donna ga sitoqtaine
どんなの(に) していましたか。

D hairo kono tabiwaan (S uN) nani tete man
そうだろう。 この たびは 何 と(いて)まあ,

dare hajaroneN otoqcantoka ozi:cjantokaaN
だれ, そうだろうね, お父さんとか おじいちゃんとか

(S uN) no:naru masite haja (S uN) ikura-
亡くなるまして (=亡くなられて)はや(どうも) どれだ

kosa anoon osabisii kotode (S uN) gozai-
け あの お淋しい ことで ござい

masjote man konna jona monzja oraqcjano
ましょうと, まあ こんな ような ものだ わたしらの

kota:
ことは。

S kimaqte mo:toru monno ne:
きまって しまっている もの ね。

D kimaqte mo:toru uN (S hu:N) iroiro osjewa
きまって しまっている, うん。 いろいろ お世話

simasitaredo nancju nasakenai tete konna
しなされたが、 行どいう なさけない と。 こんな

jona mondesicja dokomo iqsjo desicja konna
ような ものですよ。 どこも おなじ ですよ。 こんな

monna un
ものは、 うん。

S kazini naqtara do:sita gai kazini naqtara
火事に なったら どうした のだ。 火事に なったら。

I kazimimai desucja
火事見舞 ですよ。

D an kazimimaike
あ 火事見舞ですか。

S a: anmari nai mondene: anna monna
あ あまり ない ものでね、 あんな ものは。

D nai monde oraqcja anta kazimainidomo
ない もので。 わたしら あなた 火事見舞になど、

otokodaqcja baqka iku monde ucira (I hu:N)
男たち ばかり 行く から (この)家など(では)。

haironen (S un) ora kono tosini naqtoredo
そうだろうね わたし(は)この 年に なっているが、

kazimimainidomo iqta kota: naiwaine (S hun)
火事見舞になど 行った ことが ありません、

un
うん。

S omojaniin aqtaro gaine kazi (D un un)
本家に あったでしょう、 火事(が)。

antoki ne:sanni o:ta toki owanandakaine
あのとき (本家の)よめさんに 会った とき(どうした)。会わなかったですか

ucino hitoni
家の 人に。

D owananda
会わなかった。

S hu:N soja anmari nai monne:
ふうん、 そうだ、(火事は)あまり ない からね。

I nai koqcja sakaine:
ない ことだ からね。

S otokono hitoe me:si moqteka nanka sitee:
男の 人は 名刺 持ってか 何か して、

honde owarija mon ne:
それで 終りだ もの ね。

D hoja (S hu:N) konde terebidemo mitoq
そうだ。 これだ テレビでも 見ている

cju:to sono tokorono nantete kondene: nan-
という、 その ところの なに(=習慣など)といってこれでね なにし

sitapa aru mondesuredo kokora nanzjara
た(=変った)の(が)ある ものですが、 このあたり(は) 何だか

sagpukena (S huhuN) man kantanna wadesjo:-
殺風景な まあ 簡単な でしょう

waine (S un) kanta:nna konna rakuna
ね。 簡単な こんな 楽な

tokonawadesite
ところののでして。

I ano honnara ano: josono miseene (D e:)
あの それなら、 あの ほかの 店へね、 ハイ

ano monoo kaini iku toki kodomono toki do:
あの ものを、 買いに 行く、 とき、 子供の とき どう

ju:te haiqtekareta desuka
いって はいって行かれた ですか。

D a kodomono tokinine
あ 子供の ときにね。

I tatoeba okasidemo ano okasidemo kaini iku
たとえば お菓子など、 あの お菓子など 買いに 行く

toki
とき。

D kore kenke⁽⁵²⁾ are kenke cju:ta monzja hazuka-
これ ください, あれ ください といった ものだ。 はずか

sii hanaqsjaredo un oraqcjano kodomono
しい。 はなしだが, うん わたしらの 子供の

zibun
ころ(は)。

S maidosante haiqtekanandake
マイドサンといって はいって行かなかったですか。

D maidosandomo ju:taga anta oraqcjano kodomo-
マイドサンなんか いったの(は), あんた わたしらの 子供

no zibunni maidosan domo juwananda kore
の ところに マイドサン など いわなかった。 これ

kenke are kore hojaroo (S un) manzju
ケンケ, あれ(ケンケ)これ(ケンケ), そうだろう。 まんじゅう

kenketoka are kenke dandanui naqta he:ro
ケンケとか, あれ ケンケ(とか), 次第に(変るように)なった。 そうだろう,

ano nan sitara maidosan kore kudai cjudani
あの ひょっと すると マイドサン(=今日は), これ クダイ(=下さい)というのに

naqtadai mukaqsja kenkejazo
なったのだ。(しかし)むかしは ケンケだぞ。

S kenkedakeke
ケンケだけですか。

D opecuno kenke sju:no kenke cju:ta monzja
萩市の ケンケ, 子浦の ケンケ といった ものだ。

(S hu:N) un are kenke ano hojaro kwasi
うん あれ ケンケ, あの そうだろう, 菓子(を)

kenketoka kore kenketoka site ju:ta
ケンケ(=ください)とか, これ ケンケとか して いった

monja
ものだ。

S maidosandomo juwanandake
マイドサンなど いわなかったですか。

D juwaN juwaN. いわない、いわない。

S wasi rakane ju:taɕa. わたしらかね、いったが。

D maidosaN ju:toru
メイドサン(は) いる。

S anZjusaedemo haiqteku toki maidosante hai-
アンジュサ(=屋号)でも はいって行く とき、 マイドサンと はい

qteqtee: 行って行って。

D ju:ta ima anta maidosaN jori konneciwaja
いった。 いま あんた、 マイドサン より、 コンニチワだ

ɕaine honɕake kawaqta ɕai (S uN) maidosa-
がね。 それだけ 変わった のだ。 マイドサ

Nmo nanmo nakaqtawaine kore kenke are kenke
ンも なにも なかったです。 これ ケンケ、 あれ ケンケ(と)

ju:ta ɕai (S hu:N) uN
いった のだ。

I sono kenke cjunowate:nena i:kata desjoo
その ケンケ というのは ていねいな いいかた でしょう。

D sju:no kenke oɕicuno kenkete maN sju:to
子浦の ケンケ、 荻市の ケンケとって、まあ 子浦と

oɕiciɕa sonna monna hajaqta ɕadenaike ano
荻市が そんな ものが はやった のでないですか、 あの

jono hore janazeno hoe iku cju:to kusancje-
ような それ(が)。柳瀬の 方へ 行く というと クサンチェ(=

tara cju:taqta
下さいませ)とかとっていたわ。

S nanka honna ju:ne kusancje
なにか そんな(に) いうね。 クサンチェ(と)。

D uN are kusancje kore kusancje cju:taqta
うん、 あれ クサンチェ、 これ クサンチェ といわれた。

ho: suq cju to kenke cju ða cju qto zjohi nrasi
そうする というと, ケンケ というの(は) すこし 上品らしい

ðaine (S hu: N) hojarone N
がね。 そうだろうね。

I kiqto zjohi nna kotoba desjo
きっと 上品な ことば でしょう。

D zjohi nna ða desjo ðaine (S hu: N) are kenke
上品なの でしょうね。 あれ ケンケ

kore kenke oðicuno kenke sju: no kenkete
これ ケンケ, 萩市の ケンケ 子浦の ケンケと

minna ju: ta tokoja (S hu: N) hjakusjono
みなが いった ところ(=地域)だ。 百姓の

ho: wa ikeo kusancje janazjeja sonna jaqcjae
方は, いけば クサンチェ(だ)。 柳瀬や そんな(百姓の) ヤチ(=谷

kusancje cju: ta
内)は クサンチェ といった。

S hu: N kenke cju ðaine
ふうん, ケンケ という のだね。

D un kenke (S hu: N) danda nni naqte anta
うん ケンケ。 だんだん(あと)に なって あんた

maidosa nte iqte ima konnicipwajaro
マイドサンと 行って, いま コンニチワだろう。

S un wasira maidosa n jaqtawa
うん わたしら マイドサン だったよ。

D anta maidosa nka (S un) imano anta konna
あんた マイドサンか いますの、 あんた, こんな(小さい)

kodomo e konnicipwa te iku ðaine ne: ne: wa
子供が 今日(は) と (はいて)行く がね。 ね, もともと

anta ora karausa: nna konna keno monde hon
あんた, わたし(は) はっきりしない こんな 気の もので, ほん

toni in nanjazone mukasino nenðorona koto e
とうに 何ですよ, むかしの ていねいな ことは

siraN ɖadesucja zaqkubarande oru taqcjasa-
知らない のですよ、 ザックバランで いる 性質だ

kai
から。

I e e honde joi ɖadesu e:
え え それで よい のです。 ええ。

D konde kicinto sita ucuniin nansuq cjuto
これで きちんと した 家に 何する(生れたりする)というど

nanjaredo uqcja nanzjara
何だが、 (私の)家は 何だか。

S kicinto sita ucini ho:ɖeN te: monna naiwai-
きちんと した 家に 方言 という ものは ないです。

ne

D ho:kane
そうかね。

S honna kitanaï kotobacja cuko:toraNjaro
そんな きたない ことばという(もの)は 使っていないだろう

ɖaine
がね。

D hojamo sirenne:
そうかも 知れないね。

S un ano nakahaqsan tokaa:
うん あの 中橋さん(の) ところは。

D so:de gozansutea ju:te oraqcja tomodacudo:-
そうで ゴザンスと いて、 わたしら(は) 友だちどうし

qsjazo nakahaqsanno okusanto oraqcjano
だぞ、 中橋さんの おくさんと。 わたしらの

konna zaqkubaranna kotoba iwanzja
こんな ザックバランな ことば(は) いわれぬ(=使われぬ)。

S nanja(nandeja?)
何だ (なぜか?)。

D ho: suq cju:to sitasimiŋa nai jo:na monjane
そう する というと, 親しみが ない ような ものだね。

(S uN) tomodacido:si do:kjusjedo:si o:te-
友だちどうし 同級生 どうし 会って

moon cjoqto aratamaqtoqteja cju:to nanjara
も すこし あらたまっておられる というと, 何だか

okasii monja (S uN) uN
変な ものだ, うん。

S cuŋi nanka sicumonna nanka naidesuka
つぎ(に) 何か 質問は, 何か ないですか。

I e e mo daitai
え え もう だいたい(すみません)。

D ara: totonowan kotobaqkari antaan ju:teen
あら ととのわぬ ことばかり あんた いて。

I ija ija ano sore nan nao kiki rakaqta gade-
いや いや あの それ(が) なに なお 聞いたかった ので

suwa e:
す, ええ。

D nanmo anta cumamu tokomo nai banasibaqkari
なにも あんた 捕える ところも ない はなしばかり

desugaine
ですがね。

(11) シ オ シ
之 乎 路 (餡の名)

S dojaine ameo: mukasikara cukuqtoru ŋake
どうですか。 餡は むかしから 作っている のですか。

D a mukasikara
あ むかしから,

S oba:cjanno oba:cjanno maeno maeno oba:cjan-
おばあちゃんの, おばあちゃんの 前の 前の おばあちゃん

- madee joba:cjankara hazimeta dake (S hu:N) konde
 まで、(いや)おばあちゃんから はじめた のですか。
- D naNmo maeno maenô hitokara (S hu:N) konde
 いや 前の 前の 人から。 これて
- orade jonDaimeja cigai (S hu:N) a sandai-
 わたして 4代目だ というのだ。 あ 3代
- mede oqcja to:cjande jonDaimeja cigairedo
 目で、 わたしの(家の若い)トーチャン(=息子)で 4代目だ というのだが
- (S hu:N) hore⁽⁵³⁾da hairoo hani hiroku ima
 それが、 そうだろう、 範囲(を) 広く 現在
- sezu mukasino mamani maN onnano naisjokuja
 しないで、 むかしの ままに、 まあ 女の 内職だ
- tete ima sitoru monjasakai na:N nobiN
 といって、 いま している ものだから さっぱり 延びない。
- S aree nancju ameja ine
 あれは 何という 餡ですか。
- D ucinoga siozi
 家のの(は) シオジ。
- S hu:N mmai ameja ne:
 ふうん おいしい 餡だね。
- D ame toqte kite aere^e jokaqta uqkari omota
 餡(を) 取って 来て あげれば よかった、 うっかり 思った。
- mizuame ima siroi^{ga} kiretoru gai (S hu:N)
 水餡(は) いま 白いの(が) きれっている のだ。
- daigaqkono sjensje desuka ho:ON jacinô
 大学の 先生 ですか、 ほう 谷内の
- okabesanne dokono dai^{ga}kue a^{ete} dairan
 岡部さんに どのの 大学へ あげて(な) のやら、
- konna ameo cuka imonni sitaqta koto^e aru
 こんな 餡を つかいもの(=贈物)に なさった ことが あります。
- S mezurasiiwaine kono ame
 珍しいです、 この 餡(は)。

- D okabesaN tete gozonzide naidesuka
岡部さん といって ご存じで ないですか。
- S nanka kono konoheNnoine ano kita: arujarone
なにか この このあたりのね、 あの 喜多(というの)があるでしょう。
- (I eN) kawasirino (I eN) ano kitato nan-
川尻の。 あの 喜多と なに
- ka narande tomuraka nanka iwaretoqteja
か 並んで 十村か なにか(と) 云われておられる。
- D iwaretoru uci jo:ne dono ho:nokara oideru
いわれている 家(だ)。よくね どの ほうから(?) おいでる
- gaka daiyakuno daiyakuno nanno daiyakuno
のか、 大学の 大学の、 何の 大学の
- sjeNsjeDatajara jaqpari cjoqto mukasino
先生がたやら、 やはり ちょっと むかしの
- kotoo sirabeni oiderurasiiwa nanka: sjomocu-
ことを 調べに おいでるらしいわ、 何か 書物
- ga takusaN aru……
が たくさん ある。
- I aN so:desuka
あ そうですか。
- D mukasino sjurukentokane anna monna katanaja
むかしの 手裏剣とかね、 あんな ものは 刀や、
- anna monna takusaN aru uci deqsaine
あんな ものは たくさん ある 家 ですよ。
- I ano oba:cjaN me:zi nanneN umare desuka
あの おばあちゃん 明治 何年 生れ ですか。
- D ora me:zi sanzjugoneN desu
わたし(は) 明治 35年 ですよ。
- I sanzjugoneN desuka (D e:) hojakedo ano
35年 ですか (それは) そうだが あの
- se:wa nan ano amejasaNde naiadesjo
始は、 なに、 あの 館屋さんで ないのでしょ。

S doici nandesu nen
ドイツ なのです ね。

I doi doisanke
ドイツ ドイツさんですか。

D doici
土一。

S do cucito pa icinandesu
土 土と パ 一なのです。

D konna cucutoon konna kantanna na:ja ahodemo
こんな 土と こんな 簡単な 名だ。 ほかでも

kakareru
書かれる。

Same ame cukuqtoqteja monzjasakai hucu:
餡 餡(を) つくっておられる ものだから、 普通

ameja ameja cju:ne
餡屋 餡屋 というね。

I ha ha han doici nani nanisan cju:ake
は は は 土一 なに、 なにさん というのですか。

D orano nake (S u uN) doici tomi cju:adesu
わたしの 名ですか。 土一 登美 というのです。

(I a:N)

S ucino ojazirato iqsjono Daine gaqkomo
家の オヤジ(=父)らと いっしょの のだね、 学校も。

D iqsjoja honde jaqpariin mukasi hurikaeqteen
いっしょだ。 それで やはり むかし(を) 振りかえって、

dandanto toqsja ikuni cureteen a:q siawasje-
だんだんと 年が 行くに つれて、 ああ しあわせ

jananto omotewaan jamodo kodomoga oqteen
だなど 思っは(ね)。 たくさん 子供が いて

taihen na Dajaredomoon jamodo oreakoso kon-
たいへんな のだが、 たくさん おれほこそ これ

dakene miNnasite daizini site kureruwato
だけに みんなして 大切に して くれるわと

omoteen ora jorokonde oru Dadesucja un
思って わたし(は)よろこんで いる のですよ, うん。(しかし)

mada aqkato omote oraren Daicja mada aN
まだ 安心に 思って 居られない のだよ。 まだ あ

jomesaN moro kodomomo oqsi
よめさん(を) 貰う 子供も いるし。

S obaba mo cjoko suree magoe jomesaN morozone
オババ、 もう すこし すれば 孫が よめさん(を) 貰うぞね。

D jama magoe jomesaN morojori magoe ko:ko
(云いあやまり)孫が よめさん 貰うより, 孫が 高校

socujjo: sitorusi isodasii anta aqkato
卒業 しているし いそがしい。 あんた, 安心に

omote jasundemo oraren doqka kanazaono⁽⁵⁶⁾
思って 休んでも いられない。(あなたは) どこか 金沢の

ositode gozansuke aaN
お人で ございますか、 ああん。

S sensee cubatakaine
先生は 津幡ですか。

D o: oN hode gozansuke
お お そうで ございますか。

I doici tomisan e: sosite me:zi sanzju:
士一 登美さん, え そうして 明治 30.....

D goneN desu
5年 です。

I sanzju: goneN desune e
35年 ですね, え。

S hirakanano tomike
平仮名の トミですか。

D hirakanani kaitokee joi Daine honna moN
平仮名に 書いておけば よい がね, そんな もの。

S kanzja a arejaro ðaine
漢字は あ あれだろう がね。
(あるだろう?)

D aredo a nna mucukasii anta noboru cju: zito
あるが あんな むつかしい あんた、 登る という 字と

ucukusii zitode joi ðai
美しい 字とで よい のだ。

S aa: N naruhodo
あま なるほど。

D hajarō (S u N)
そうだろう。

S me: zi sanzju jonenjane
明治 34年だね。

D gone N
5年。

S gone N ke
5年ですか。

(12) イッタッタ・キタッタなど

S a ano darejara ne: san dokono hito jaine aree
あ あの だれやら よめさん どの 一人だね。 あれは、

D ucino ne: san saqporoja
家の よめさん(は) サッポロだ。

S hoqkaidobendemo aru monke
北海道弁でも ある ものですか。

D hoqkaidobenna aruwa ne: hoqkaidoto kono
北海道弁は あるわ ねえ。 北海道と この

oðicina ðato maziqtoqte nanjara oka: site
荻市の のと まじっていて、 何だか おかしくて

okasite
おかしくて。

S cjoqto okasii tokoe arune
すこし おかしい ところが あるね。

D un hojarone ano sitoe iqtawa tete ju:toqtato
うん そうだろうね。 あの 人は (他人に) 行ったわ と いていたと

omoeo waga kodomono ju: koto⁽⁵⁸⁾ kitaqtawa tete
思えば、 わが 子供の いう こと(を) 来られたわ と

ju:si o:warai suru⁵⁹daizone aree haqkiri wa-
いうし、 大笑い するのですよ。 あれは はっきり 分

karan benna maziqte simote ucino kotobao
らない。 弁が まじって しまつて、 家の(ものに対する) ことばを(→

ujamo: imini naqte sitoo cjoqto misa-
ことばが) うやまう 意味に なつて、(ほかの)人を すこし 見さ

data joni sitarine oqcja ka⁶⁰ene o:warai
げた ように したりね。 わたしら かげで 大笑い

sitoredo anta imazja sizju: s⁶¹nda monnoo:
しているが、 あんた、 いまでは 40 すぎた もの

kotobajasaka⁶²e honna mon h⁶³qtoke tete ucini
ことばだから、 そんな もの(は) 放つておけ と、 家に(→家

o:warai sitoru ⁶⁴adesudai kitaqtawane
では) 大笑い している のですよ。 来られたわね

iqtaqtawane te waga ko ju:toru jaro hokano
行かれたわね と わが 子(のことを) 知っている だろう。 ほかの

sita: aree kitaqta kita ⁶⁵ae tete ju:tewa
人(について)は あれが 来られた、(いや)来た のだ と いては

oqsakai e:…… obande gozaimasute konbanwa
いるから。 ええ オバンデ ゴザイマス(=こんばんは)と(いう)。こんばんは

cju ⁶⁶ane obande gozaimasute ju:toru ⁶⁷ajasi
という のをね、 オバンデ ゴザイマスと 知っている のだし。

S hosite kitaqtatoka honna ⁶⁸ani ju:ne (D un)
そうして、 来られたとか、 そんな のに いうね。

iqtaqtatoka kitaqtatoka
行かれたとか、 来られたとか(いう)。

D uN ju:waine
うん います。

S iqta cjuwan ɳaine
(わが子に)行った といけませんね。

D uN iqtaqta kitaqta waɳa kodemo sonna ɳaizo
うん, 行かれた 来られた(と), わが 子でも, そんな のだぞ。

(S uN) ho:jato okasite okasite naran tete
そうだと おかしくて おかしくて ならない といって

miNna waro: ɳai (S uN)
みな 笑う のだ。

S iqtaqtawane toka kitaqtawane cju:ne (D uN)
行かれたわね とか 来られたわね というね。

I ja: do:mo arigato gozaimasita
やあ どうも ありがとう ございました。

注

- (1) [p. 5] anooNはano よりも親しみがあり, やわらかい表現のように思われる。「あのね」と訳してもよいであろう。
- (2) [p. 5] tokinii:とtokiniの関係も(1)におなじ。以下こうしたものは省略。
- (3) [p. 5] teɳajaをtega da とはいわないが, -jaは-daより親しみのあることは確かである。ただし-jaはあまりていねいとはいえない。
- (4) [p. 5] 語句の長くなるときは, このようにも切る。以下切りかたは必ずしも揃えていない。
- (5) [p. 5] こうしたなくてもよいようなものが多い。しかし, 訳にあたるものはつけておく。
- (6) [p. 6] -ɳaiは-ɳaja(のだ)ともいう。
- (7) [p. 6] keはkaのていねいな形。
- (8) [p. 6] ho:reθ:である。カナならばホレーとでもしたいところ。以下同様。
- (9) [p. 6] (だろうね)と訳したが, (でしょうね)に近い気持の表現。

- (10) [p. 7] he:karaはhorekara (それから)におなじ。
- (11) [p. 8] anCjaNは長男のこと、ここではおばあさんの孫。
- (12) [p. 9] o toqcaN (お父さん)はおばあさんの夫のこと。
- (13) [p. 9] kitaqta (来られた)はkitaに対する敬語。
- (14) [p. 10] oraNz jaqta (おられなかった)はorandaに対する敬語。
- (15) [p. 11] siomaciの町名は志雄、字名は子浦と書く。志雄町の中心が字子浦である。
- (16) [p. 11] 志雄・子浦を〔ju:〕という。
- (17) [p. 11] monosuŋoiは若年に多い。このおばあさんが使うとは考えなかった。なお、このおばあさん是对話の前半かなりあらたまっている。takusaN (沢山)が後半 jamodo (沢山)に変わることからもわかる。
- (18) [p. 11] -ŋeは-ŋai←ŋaja (のだ)よりもていねいな形。-ŋe (です)と訳しておく。
- (19) [p. 13] hitokazukiになえる荷量(単位)。
- (20) [p. 13] ucira 私の家などではの意味。
- (21) [p. 14] wasi 男子の自称、ただし、加賀や能登。越中では女子がwa:si。
- (22) [p. 14] na:N なにも・いいえ。
- (23) [p. 14] na:N (なにも)、あとのikaN (行かない)にかかる。
- (24) [p. 14] otoma たとえば、音吉などを心安く「オトマ」と呼ぶ。
- (25) [p. 16] kaqta toko 勝った角力取りの出た部落。
- (26) [p. 17] hoNne それね・あれね・例の
- (27) [p. 19] -ŋakai (一のか)は「一のかよ」とでも訳すべきか。
- (28) [p. 20] ora 自称。口能登や越中の特徴。加賀・越前はura, 奥能登はoreである。
- (29) [p. 24] obaba おばあさんを心安く呼んでいる。
- (30) [p. 24] kawara (河原?)人名。
- (31) [p. 24] naNmo ほかは「なにも」せずの意味。
- (31b) [p. 24] arcə 獅子舞いのハヤシ。
- (32) [p. 25] geNmai 玄米。
- (33) [p. 25] siNmai 新米。
- (34) [p. 26] ho:zi 真宗寺の報恩講のこと。寺の前に店が並ぶ。
- (35) [p. 26] naŋimisɯ (なります)。ていねいな云いかた。金沢が中心である。
- (35 b) [p. 28] ()内は話し手Sのジェスチャに対するおばあさんの発言。
- (36) [p. 32] moNkaraはmoNŋa: (ものが)であるかも知れない。訳は「ものが」としておく。
- (37) [p. 32] miqcaはmikusaの早口と考える。

- (38) [p. 33] naNmo なにも・いいえ。naNmo jaは「違う」。
- (39) [p. 33] beqcja 別だ・違う・いいえ。能登のベッチャはこの志雄町からである。
- (40) [p. 33] beqcjagaine (39)のbeqcjawaneとおなじく「違います」と訳し得る。
- (41) [p. 33] iqpiki 人でも物でもiqpiki。
- (42) [p. 36] ja:ja (母) 母はokaka・ka:ka・ja:jaの順にわるくなる。つまりja:jaは低い階層の母。
- (43) [p. 37] ne:sa 家のニックネーム。-saは一さん。
- (44) [p. 38] aNcjan (長男)。
- (45) [p. 40] gozabo:si 雨具の一種。ゴザでつくる。ここの発音はgozabos+, ゴザボスのように聞かれる。
- (46) [p. 45] hesuna nakaro (hesinaiことはないだろう)。hesinai 待遠い。たいくつだ。
- (47) [p. 45] bakaraide (わからなくて)はwakaraideが普通。bakaraide ふうは東に接する越中が本場。
- (48) [p. 45] koNnageə (こんなのだ)はkoNnaŋajaの変形。
- (49) [p. 45] rikucuna 「都合よい・便利な」。用途の広いrikucuな語である。金沢でも使う。
- (49b)[p. 46] ()内は話し手Iに対する話し手Sの発言。話し手Dとは関係がない。
- (50) [p. 51] bosa:qto ボンヤリ何もしないで。
- (51) [p. 52] naN sita (なにをしたということもない、まことにつまらない)の意味。あいさつによく使われる。
- (52) [p. 55] keNke—kurenke (くれませんか)
- (53) [p. 60] hairo—hojaro (そうだろう)。念を押すとき、対話でよく使う。
- (54) [p. 61] ho:no kara. dono ho:no (どの方の)をdono ho:kara (どの方から)にしようとしたためかと思う。
- (55) [p. 62] jamodo (たくさん)。これまではtakusanを使っていた。これは後半気楽になった証拠であろうか。
- (56) [p. 63] kanazao (金沢)のこと。郡部でのもっと普通の形はkanezao。
- (57) [p. 64] hajaro そうだろう。hojaro・hairoが普通。
- (58) [p. 65] kodomono ju: kotoはkodomono koto ju:ŋani (子供のことをいうのに)のようにしないと意味が通じないかと思う。

非 売 品

1 9 6 8 年 1 0 月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町